

2019年度 県立石岡特別支援学校 自己評価表

<p>目指す学校像</p>	<p>◆一人一人の学びを大切にしている学校 ◆安全・安心で互いを大切に思う学校 ◆地域のよさを大切にしている学校</p>	<p>達成状況および評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない</p>				
<p>昨年度の成果と課題</p>		<p>重点項目</p>		<p>重点目標</p>		<p>達成状況</p>
		<p>A 安全・安心で温かな教育環境づくり</p>	<p>①児童生徒が安心して学習や生活できる教育環境の整備 ②全学年での「道徳」の授業を通した相手を思いやる豊かな心の育成</p>		<p>B</p>	
		<p>B 一人一人が学ぶ楽しさを実感できる授業づくり</p>	<p>③ICTを積極的に活用した学習支援の工夫等による生活に結び付いた確かな学力の定着 ④自立活動の充実(専門家と連携した事例検討,教科等の学習との関連)</p>		<p>B</p>	
		<p>C 地域資源の有効活用と地域に根ざした教育の推進</p>	<p>⑤地場産業と共同した授業づくりと地域との交流の推進 ⑥地域の自然や公共施設等を有効活用した健やかな心や体の育成(自然体験や自然散策等)</p>		<p>B</p>	
		<p>D センターの機能をいかした地域の特別支援教育の充実</p>	<p>⑦幼児教育施設や小・中・高等学校への巡回相談を通した地域の子供たちへの支援の充実 ⑧学校公開や研修会を通した特別支援教育に関する情報の積極的な発信</p>		<p>B</p>	
<p>項目</p>	<p>具体的目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>該当項目</p>	<p>評価</p>	<p>課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)</p>	
<p>教務部</p>	<p>本校の教育目標の特色(4つの柱)を踏まえた取り組みを推進するために,小・中・高等部及び校務分掌部との連携を強化し,カリキュラムマネジメントに基づく教育の充実を図る。</p>	<p>・定期的に部連絡会(教務主任,部主事,校務分掌部長 ※教頭は必要に応じて)を実施して,情報交換を行う。 ・各部と連携して,ICTを活用した授業及び道徳の研究授業の実施及び授業改善を行う。 ・各部と連携して,地域資源活用の計画と実践を行う。</p>	<p>A-①②B-③④C-⑤⑥ D-⑦⑧</p>	<p>B</p>	<p>●臨時の会議開催が多くなってしまった。 ◇各部と連携して,見直しをもった定期会議での議案の選定をする。 ●各部の系統性,学校全体での取り組みや情報共有の場の設定が少なかった。 ◇授業デザイン研究部と連携して,校内研修で定期的に各部の取り組みについての確認や情報共有をする場を設定する。 ●カリキュラムマネジメントの基本的な考え方について,共通理解が不十分だった。 ◇今年度の反省を活かした部経営方針を作成し,年度当初に学校全体で確認して共通理解を図る。</p>	
	<p>円滑な学校行事の計画,運営と,的確な学校全体スケジュールの管理,運用に努める。</p>	<p>・経営企画会,運営委員会,職員会議の議案の精選と周知の徹底を図る。 ・校内ネットワーク(イントラネット)による情報の共有と,液晶ビジョンによる情報提供を行う。</p>	<p>A-① B-③</p>	<p>B</p>	<p>B</p> <p>●情報伝達や会議の効率化を進めてきたが,打合せ回数が多くなったり,臨時の会議が多くなってしまった。 ◇会議資料のイントラネットやTeamsの活用による事前確認を行う。 ●全ての職員が毎日イントラネットを確認していないため,情報が伝わらないことがあった。 ◇ICT活用推進部と連携して,現在使用しているTeams,イントラネットを職員のニーズに応じて,現在使用しているTeams,イントラネットについて,使いやすく,わかりやすい情報伝達システムを構築していく。</p>	

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
教務	特色ある教育課程の検討作成に努める。(道徳, ICT, 作業学習での地域資源活用)	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携推進部と連携して, 地域資源のネットワーク構築と活用を深める。 部連絡会において, 教育課程の情報交換により評価, 改善を行う。 	A-①② B-③④ C-⑤⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ●各々が地域資源をどのように活用するか計画が不十分であったため, 実施計画や準備に時間を要した。 ◇地域連携部と連携して, 地域資源の情報をまとめ, 年間の見通しをもって計画立案ができるようにする。 ◇地域との連携を深めるために, 地域へ積極的に情報発信を行っていく。 ●各部と連携できる校務分掌部の活動内容が明確でなかった。 ◇部経営方針に, 各部と連携を図れる具体的内容を記載する。 ◇部連絡会議で, 校務分掌部と各部が連携する取り組みについて確認をする。
	開かれた学校づくりの推進と校内の可視化の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 教育月間において, 地域とのつながりを考慮した, 学校公開の内容を, 関係する部と連携して計画及び実施をする。 校内掲示方法を示したマニュアルを作成し, 学校全体で可視化を意識した掲示を行う。 	D-⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ●校種や地域によって参加に偏りがあった。 ◇地域支援部や地域連携推進部と連携して, 定期的に本校の取り組みについて情報発信を行い, 理解啓発を進めていく。 ◇教育月間以外の長期休業日等参加しやすい期間に, 施設見学や特別支援教育に係る研修等を計画して, 理解啓発を図る。 ●学校全体として可視化の取り組みに対する意識が高まり, 工夫が見られたが, 掲示物のタイトルや説明記載等の有無を含めたばらつきがあった。 ◇学校としての基本となる掲示計画の再確認と検討を図り, 周知徹底をして統一を図る。 ◇掲示コーナーの場所を確保する。(パネルやボードの設置)
教科書・図書	教科用図書の採択に関する必要な事務処理を適切に行う。	<ul style="list-style-type: none"> 活動や事務処理の方法について係で周知するとともに, 他校と連携を密にして情報の交換を行う。 教科用図書選定協議会, 選定委員会の計画と実施を行う。 次年度の教科用図書選定にかかわるチェックを各学年で十分行うよう周知する。 	A-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ●転出入があった時, 給与証明の手続きが遅くなってしまった。 ◇教務, 部主事と連携して転出入があった場合は速やかに給与証明の手続きができるようにする。 ●会議と会議の期間が短く, 準備が慌ただしかった。 ◇十分な準備検討ができるようにスケジュールを立てる。
	教育活動での図書の活用の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 新規の図書の購入を行い, 新規購入図書の紹介について, 教員向けにイントラネットによる情報共有を行う。 児童生徒向けに, 学期1回程度の図書日より発行し, 情報提供を行う。 	A-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ●寄贈本に関しての, 整理と周知が不十分である。 ◇寄贈本リストの作成と寄贈本があった場合の周知(イントラ, 図書日より, 図書室)を行う。 ●図書の紹介や利用の約束などが中心で, 具体的な児童生徒の意見の吸い上げが足りなかった。 ◇具体的な児童生徒の意見を吸い上げたり, 委員会コーナーの設置をしたりするなど, 周知にあたる。
	児童生徒が使いやすい図書室にするため, 図書室の環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> 本の種類等分かり易い見出しづくりを行うなど, 本の整理を定期的に行う。 蔵書の管理においては, コードを使用した電子化の導入の計画, 実施を行う。 	A-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ●購入本について, 日本十進分類法に基づく本の納入がまだのため, 仕分けはできなかった。 ◇本が届き次第, 分類を行う管理徹底を図る。 ●必要ソフトの準備ができなかった。 ◇ソフトが届き次第, 設定をして, 図書システムの構築を進める。
	要録, 出席簿, 学級会計簿の準備・保管・点検補助を適切に行う。	<ul style="list-style-type: none"> データベースの有効活用と各表簿類の管理, 確認を各部と連携して行う。 	A-①② B-③	C	<ul style="list-style-type: none"> ●要録, 出席簿のデータベースの活用はできたが, 会計処理に関しては, 新しい方法となり, 作成や確認に時間がかかった。 ◇今年度の実績を一覧にまとめ, 年度当初に会計処理についての, 伝達をする。 ◇諸帳簿の提出日を年間予定に入れ, 見通しを持てるようにする

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)	
庶務 表簿	各種記入例を作成し, 記入しやすいうにする。	・校内ネットワーク(イントラネット)に記入例・様式をアップし, 情報の共有を行う。	A-①② B-③	B	●形式について, 周知後に一部変更があり, 作成に時間がかかった。 ◇イントラネットに諸帳簿の形式, 記入例をまとめ, 年度当初に伝達をする。	
	掲示コーナーの有効活用を図る。	・掲示方法の工夫(タイトル・レイアウト)と掲示物の精選を図り, 有効な上表提供を行う。	B-③	B		●いろいろな掲示物が混在して, 有効な情報提供ができないことがあった。 ◇掲示物を精選と, 掲示場所の確保, 掲示方法の工夫をする。(職員向け, 児童生徒向け, 分野別等)
基本 研修	若手教員研修の手引に従い, 初任者, 3年次の職員の研修について, 計画的に実施する。	・若手教員自身が自分で課題を設定し, 解決が図れるように道筋を提示したり, 助言や資料, 情報の提供を適切に行ったりする。	A-① A-② B-③ B-④	B	●よりよい授業改善のために, ICT活用を含めた教材研究やスキルアップの時間, 振り返りの時間が少なかった。 ◇成果を発表できる場を設定したり, 他学部での指導を体験したりして, 指導や支援の視点を深めるような場を設定する。	
	若手教員の指導力向上のための情報提供や助言を行う。	・若手教員が効果的な指導を行うために教育環境の整備やICT活用ができるよう各分掌部と連携して情報提供や助言を行う。	A-① A-② B-③ B-④	B		●ICTや教材の効果的な活用のために学部学年及び各校務分掌との連携が少なかった。 ◇ICT活用を積極的に取り組めるよう, ICT係や各部と連携して, 教材情報の提供や研修を進める。
	若手教員のニーズに応じた研修の機会を確保する。	・若手教員の課題や疑問に応じた研修となるよう, 若手教員の困り感に耳を傾ける機会を設け, 適宜助言を行う。	A-① A-② B-③ B-④	B		●指導支援を深めるための若手教員育成の観点について, 学校全体で共有するには至らなかった。 ◇イントラネットや学協会, 部連絡会議で定期的に若手教員研修の取り組みの現況報告を行い, 学校全体で若手研修の協力体制を構築する。
現職 研修	児童生徒理解を深めるための人権教育に関する校内研修の企画運営を行う。	・授業デザイン研修部道德教育推進係と連携し, 人権教育に関する校内研修の企画・運営を行う。	A-① A-② B-④	B	●現職研修として人権教育研修会, デザイン研修部道德教育推進係と連携して2回の道德研修会と校内では3回の研修会を行ったが, 双方の関連を持たせることができなかった。 ◇授業デザイン研究部と連携して, 人権教育の研修を計画する。	
	特教研等の関係機関等との連携を図り, 教職員の研修の機会を確保する。	・教職員への特教研についての理解啓発をはかり, 特教研入会を促す。 ・特教研研修のアナウンスを充実し, 研修の機会の確保する。	A-① A-② B-④	A		●研修会案内文書の掲示が分かりずらく工夫が必要であった。 ◇掲示場所に内容別に分けて掲示する。 ◇イントラネットに一覧(日時・場所・内容)をアップする。 ◇イントラネットへのアップや各会議の中で議案にして, 周知をしていく。
	特教研に関する事務処理等を円滑に行う。	・特教研の総会等に参加し, 企画運営に関する理解を深める。	A-①	A		●事務局からの伝達事項や会議内容の職員への周知が不十分なものがあつた。 ◇分科会主幹校となるため, 事務局や関係者と連携を図り, 情報共有をして, 学校全体で準備を進めていく。
渉外	PTA組織作りの準備や計画を推進する。	・PTA組織準備会及び本部役委員会で検討した内容を職員・保護者で共有し, 検討・実施する。	A-①	B	●PTA組織ができ, 各委員会の活動を進めることができたが, PTA活動への参加者数が少ない事業もあつた。 ◇ホームページや広報紙でPTA活動に関する情報を発信し, 参加を促す。	
	本部役員会及び各専門委員会の活動を計画・実施できるように保護者及び職員間で連携を図る。	・本部役員会及び各専門委員会等の活動を保護者主体で行えるように資料準備や会議の進め方を工夫する。	A-①	B		●保護者と連携して事前の会議議案の確認や資料の準備が十分行えないことがあつた。 ◇今年度の実績を基に, 本部, 各委員会, 学校が連携を図り, 年間計画を作成し, 分担や内容を確認しながら準備を進める。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
	教育環境を整えるための奉仕作業等を計画実施できるようにする。	・教育環境整備係と連携し、除草作業または清掃活動などを行えるようにする。	A-①	B	●実施計画の変更があり、内容決定に時間がかかってしまった。 ◇教育環境整備係と連携して年間スケジュールを立て、奉仕作業の準備及び実施をする。 ◇必要な用具等の確認と確保を行う。
授業デザイン研究部	授業デザインに係る校内研修を推進するとともに、その他学校全体に係る種々の研修との一体化を併せて推進し、総合的な専門性の向上を図る。	・年度始めに、各校務分掌が計画している研修を把握し、研修実施の際には、関係する分掌と連携して研修の充実を図る。	A-①② B-③④ C-⑥ D-⑧	B	●各教科等を合わせた指導を中心に、各教科と自立活動との関連についての、各学部の研修で進めた途中経過を全職員が確認する機会が少なかった。 ◇学部研修の経過や情報を全職員が共有する場を設け、合わせた指導と各教科、各教科等と自立活動のつながりや学部間の系統性などのつながりを整理し、教育課程の改善に活かす。
校内研究推進	各校務分掌と連携し、校内研修を推進する。	・各校務分掌と連携し、研修の年間計画調整して、年間を見通して研修に取り組むことができるようにする。	A-① B-④	B	●年度の途中で計画された研修の中には、修学旅行や校外学習等他の行事などの時期に重なってしまったものもあった。 ◇今年度実施した研修を参考に次年度の研修計画を年度末に各校務分掌に依頼し、全体での日程調整を図る。
	地域の小・中・高等学校との合同研修を計画し、専門性の向上を図る。	・地域支援部と連携し、校内研修と地域の小・中・高等学校のニーズを把握し合同研修を年2回実施する。	B-④ D-⑧	B	●研修に合わせた公開授業は各学部1であったが、他校からの参観者からは他学年の授業も参観したかったとの感想があった。 ◇他校(小中高等学校)への公開の際には、ニーズを把握し、公開授業の数や学年を決定する。
	授業デザインに係る授業研究に向けて指導案の形式を検討する。	・教科等を合わせた指導における各教科との関連を明確にするための指導案の形式の検討を行う。	B-④	B	●教科等を合わせた指導の指導案では、関連する教科を記入することはできたが、情報が多すぎてしまった。 ◇単元と各教科とのつながりが分かる情報になるよう記入項目を精選した様式を提案する。
道徳教育推進	小学部、中学部、高等部での「道徳」の授業をとおして、相手を思いやる心を育む。	・授業実践事例を蓄積するとともに、各学部での授業研究を実施することで授業改善を行う。	A-②	B	●学年相互の授業を見合う場を多く設定することができなかった。また、指導案の形式についても検討が必要である。 ◇次年度の授業研究の在り方について今年度の研修の反省を踏まえ、資料を作成する。指導案の形式について見直しを行い、書き方の方向付けを行う。 ◇各部相互の道徳の授業の参観日を設ける。
	学校教育全体から見て、相手を思いやる心を育む道徳教育を推進する。	・児童生徒支援部や保健安全部を中心とした関係する分掌と連携するとともに、学校行事や教科・領域等とのかわりを踏まえた道徳教育の全体計画を立案する。	A-② C-⑥	B	●道徳教育の全体計画や3か年計画について職員会議での提案で、内容を共通理解を深めるまでには至らなかった。 ◇教科・領域部会を活用して道徳の全体計画に触れたり、年度始めに研修計画を伝えることで2年目に実施することを明確化する。
	学習指導要領を踏まえた道徳教育を推進する。	・学習指導要領解説の内容項目を月ごとにテーマとして設定して年間指導計画を立案するとともに、内容項目の解説の内容を校内職員に周知する。	A-②	A	●テーマ設定の仕方やテーマ数、取り上げる内容を実態に応じて検討するために、各学年、学部での授業を参観したかったが、機会を設けることができなかった。 ◇学部・学年でテーマについて検討する時間を設ける。 ◇年間の予定を計画する際に、相互参観日を設定する。
学習指導	年間指導計画の書式を検討する。	・生活単元学習の年間指導計画について、合わせた教科を明確に示すことができる書式を検討する。	B-④	B	●生活単元については、何の教科を合わせたのかを明記できる様式の作成までとなり、活用には至らなかった。 ◇次年度、新様式を使用した生活単元学習の年間指導計画を作成できるよう年度当初に提示する。

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価		課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
支援		自立活動の指導計画について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 他県や他校の手順シートの書式の情報を収集する。 本校での手順シートの活用を検討する。 	B-④	B		<ul style="list-style-type: none"> 自立活動手順シートの活用までには至らなかった。 ◇ケース会や研修日を設けて、具体的に事例検討する中で手順シートの活用方法の共通理解を図る。
		プロフィール、個別の支援計画、個別の指導計画の書式の検討をする。	ICT活用推進部と連携し、システム運用する。作成上改善点が見られた場合はICT活用推進部とともに改善を行う。	B-③④			B
ICT活用推進		<p>個々のニーズに応じた、合理的配慮の提供及び情報活用能力の育成、教職員の校務の効率化を図るとともに、教育環境づくりを進めるために、ICT活用及び機器等の整備を推進する。</p> <p>ICTの活用について、技術的な支援や共同事業などを行いながら、各学部、各校務分掌部・係等と連携する。□</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業等で活用できるICT環境の整備と活用の仕方についての研究および伝達 情報の共有化と業務の効率化を目指した校務用情報システムの開発、導入、整備 どのようにICTを活用していくかを関連の部署および関係者と検討し、技術的な支援をしたり、共同事業を行ったりする。 	B-③④ D-⑧	B		<ul style="list-style-type: none"> ●環境の整備は概ね予定通りに進んだが、授業での活用(特に児童生徒の利用)ができる時期が遅くなった。 ◇「デジタル作品」による学習と評価を設定し、積極的な活用を促進する。 ●校務用情報システム導入は概ね計画通りに進んだが、十分な業務効率化を達成できていない。 ◇イントラネット、Microsoft Teams、データベース、ファイルサーバーそれぞれをどう利用するとどのようなことが効率化できるかを具体的に示し、活用を促進する。 ●他部署からの要請で多数の案件に対応したが、積極的な働きかけには至らなかった。 ◇各部及び校務分掌部等のニーズを把握し、ICTによる解決策を提供・提案する。
ICT活用		教室等のICT環境の整備を行う。	●無線LANの環境を構築するため、通信機器を導入し、必要な設定を行う。	B-③			A
		液晶ビジョンやタブレット端末等を授業等で活用できるよう研究し、伝達する。	●液晶ビジョン(TV)やタブレット端末、教室に設置されるPCの活用方法について研究し、授業等での利用方法について伝達する。	B-③④ D-⑧	B	B	

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
	技術的な支援や共同事業を行い、各学部や各校務分掌部、係等と連携する。	・各種システムやアプリケーションの導入や利用の仕方などの技術的な支援を行ったり、各種システムの開発や研修会の協力、指導方法の研究などを共同で行ったりする。	B-③④	B	●ICT活用推進部と〇〇部(係)という1対1の連携は進んでいるが、多部署が連携する場合の業務支援や共同事業はあまり見られなかった。 ◇各学部、各分掌部のニーズを把握し、ICTによる問題解決手段(業務支援、授業支援、学習支援等)を提供、提案する。 ◇イントラネット(SharePoint)やTeams(Microsoft Teams)を活用し、柔軟な業務展開、議論、共同作業を可能にしながら、所属部署の枠組みにとらわれないような連携を促進していく。
校内ネットワーク整備	校務用情報システムを開発、導入する。	・イントラネットシステム、ファイルサーバー、メッセージングツール、デジタルサイネージシステム、画面転送システムなどを設定、設置し、情報共有を促して、業務の効率化となるよう、適切に運用できるよう管理する。	B-③	B	●プリントアウトし、紙ベースでの処理がまだまだ多く、プリントコストのほか、時間的、労力的なロスが見られる。 ◇業務の効率化について分析し、効果的なICTの利用方法を伝達する。パソコン上でできること(イントラネットやTeamsを活用しての共同データ編集、情報集約、タブレット付属のペンによるコメントの入力など)と、アナログな手法のほうが適していることを比較し、業務が改善、向上していることを、業務量や時数などで示せるかを検討する。また、改善等が可能なシステムやツールを積極的に導入していく。 ●初年度としてのデータベースシステムの開発と運用ができたが、運用として、データベース用サーバーのリプレースが必要である。 ◇新しいサーバーでの運用のため、システムを移行する。必要な機能の追加、改良等は定期的に対応する。 ●イントラネット以外にも、デスクトップPCと液晶ビジョンを活用したデジタルサイネージシステムも構築したが、サイネージシステム用PCのネットワークへの接続が不安定である。 ◇ネットワーク機器と設定の変更を行い、安定的なネットワーク接続ができるようにして、サイネージからの情報伝達の効率性を高めていく。 ●Teamsの利用場面がまだまだ限定的である。 ◇効率的な活用の事例を示し、Teamsによるチャットやファイル共有などの機能を利用を促進する。
	個別の指導計画等のデータベースシステムを開発し、管理する。	・個別の指導計画等のデータベースシステムを開発し、必要な機能の追加など改良を加えながら、適切に運用できるよう管理する。	B-③	A	
	情報伝達のシステムを導入し、活用する。	・情報伝達の効率性を高めるため、デジタルサイネージシステムや画面配信システム、メール配信システムなどを利用し、設定、管理する。	B-③	B	
地域支援部	地域のニーズに応じた相談・援助をとおして、地域の特別支援教育の一層の充実を図る。	・幼小中高のニーズの把握に努め、関係間との連携を図りながら、ニーズに応じた相談・援助や特別支援教育に関する研修会、情報提供を行う。	B-③④ D-⑦⑧	B	●幼児教育施設や小学校に比べて地域の中・高等学校からの相談依頼や研修会参加が少なかった。 ◇「中学校・高等学校教職員対象特別支援教育研修会」「ICTの効果的な活用に関する研修会」を立案、開催する。 ●体験入学や巡回相談の案内の時期が遅くなってしまった。 ◇年度初めに体験入学等の年間予定を学校ホームページで随時情報発信を行う。
特別	合同研修会や公開授業、依頼元からのニーズに応じた研修協力をとおして、地域の特別支援教育の充実を努める。	・授業デザイン研究部、ICT活用推進部と連携し、地域の学校(園)の教職員に向けて、特別支援教育に関する研修会や協働した授業研究を計画、実施する。	B-③④D-⑦⑧	B	●地域の教職員に向けて授業デザイン研究部と連携して合同研修会を実施したが、ICT活用推進部と連携した研修会ができなかった。 ◇地域の小中高教職員対象に「ICTの効果的な活用に関する研修会」、中学校・高等学校教職員対象に「特別支援教育研修会」を立案、開催する。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)	
支援教育巡回相談	巡回相談をとおして、依頼元のニーズに応じた相談・援助に努める。	・巡回相談では、依頼先の学校(園)のニーズに応じた支援を心がけて対応する。また、巡回相談員としての専門性向上を目指しながら、市教育委員会や外部専門家との連携を密にし、より効果的な援助ができるようにする。	D-⑦⑧	B	B	●専任コーディネーター単独での巡回相談が多く、他の巡回相談員や専門家活用のケースが少なかった。 ◇巡回相談事前打ち合わせの聞き取りシートを作成し、主訴を絞り込む他の支援ツールの一つとして活用することで、よりニーズに応じた組織だった巡回相談につなげる。
	地域支援部の活動について情報提供に努め、地域の学校(園)や関係機関と顔の見える連携ができるようにする。	・本校ホームページを活用し、学校説明会や体験学習等について情報発信を行う。年間をとおして、随時、地域の学校(園)や関係機関と情報交換をしながら活動する。	D-⑦⑧	B		●新設校の地域支援の取り組みについて情報提供に努めたが、十分な連携ができない市、学校(園)や関係機関もあった。 ◇各市の研修会等に参加したり、学校(園)、関係機関との情報交換の機会を設定したりして連携を強化する。
就学前教育連携	ニーズに応じた研修協力をとおして、地域の幼児特別支援教育の充実に努める。	・保育所管轄の市こども福祉課や市教育委員会と連携し、地域の幼児教育施設の教職員に向けて、特別支援教育に関する研修会を本校にて実施する。	D-⑦⑧	B	B	●8月下旬に、幼児教育施設教職員対象特別支援教育研修会を実施したが、参加者の地域に偏りがあった。 ◇年度初めに、市子ども福祉課、市教育委員会をとおして、幼児教育施設への巡回相談や学校見学等について案内する。また、ホームページを活用し、随時、情報提供を行う。
	体験入学や教育相談、就学説明会などを実施し、本校の就学予定児の保護者への情報提供を行うとともに、幼児についての情報を集める。	・4回の体験入学を通じて、保護者に本校の教育について知ってもらう。本校への就学が決定した保護者には教育相談と就学説明会を実施する。	D-⑦⑧	B		●第2・3回体験入学は、参加児童数が多かったため、大集団での授業体験、短時間での教育相談になった。 ◇年度初めに、体験入学の希望者が多い場合の体制づくりやスケジュール調整を行い、立案、実施する。
	本校への就学予定児が利用している幼児教育施設を訪問し情報を集めることで、移行支援の充実に努める。	・次年度、本校就学予定児がスムーズに本校での学校生活をスタートできるよう、対象児が利用していた幼児教育施設への移行支援訪問を計画する。	D-⑦⑧	B		●令和2年度新学齢児の保護者からの相談ケースに多く対応したが、幼児教育施設職員との情報交換の機会が少なく、十分な連携ができなかった。 ◇幼児教育施設、療育機関に対して、本校の就学予定児についての移行支援シートの記入を依頼し、より多く情報収集を行い、就学後の支援に活用できるようにする。
地域連携推進部	学校公開や学校間交流、地域交流等をとおして、地域とのつながりを深めるとともに、地域への情報発信を積極的に進め、地場産業等の地域資源の開拓と有効活用を図る。	・交流学习や協働学習の校内での希望調査や、地域資源に関する情報収集を行いながら、地域の方々と有意義な教育活動ができるよう努めていく。(地場産業を取り入れた本校オリジナル製品・販売や開校記念歩く会の立案・実施など)	A-① C-⑤⑥ D-⑧	B	●地域の各団体等との取り組みについての共通理解に時間がかかり、活動計画の作成と実施が遅れた。 ◇年度当初に各部と連携をとり、1年間の見通しをもち、関係団体との打合せを行う。 ◇「地域資源マップ」の情報を随時更新・提供し、積極的な活用を促す。	
	学校間交流において、本校についての理解啓発に努めるとともに、学校周辺の小・中学校等と共に学び合う機会をつくる。	・石岡市教育委員会から市内の小・中学校の状況を伺う等の連携を図る。	A-① D-⑧	A	●同世代の児童生徒同士が交流できたことで、普段の様子からは見られない生き生きと活動する様子が見られたものの、緊張して消極的に活動している生徒も見られた。 ◇交流の内容や場所等の検討、準備段階から十分配慮していく。	

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
交流学習	地域交流において、交流相手や団体の開拓を行い、地域の人々との信頼関係を作ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源についての情報共有を地域連携係と密に行う。 ・本校の紹介パネルを作成し、学校についての情報発信や理解啓発に努める。 ・交流学习の実施にあたり、随時交流相手と打ち合わせを行うよう当該担当者に説明し、各学部の進捗状況を把握する。また、来年度につなげるために交流担当者会議を企画し、実施する。 	A-① C-⑤⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●係内での地域交流の進捗状況は共通理解を図ってきたものの、職員への情報提供の場面が少なかつた。 ◇地域連携係が中心に作成した「地域資源マップ」を職員に周知し、積極的な活用につなげる。 ●地域の方々への本校の取組の情報提供の場が少なかつた。 ◇次年度1学期中に、今年度の取組と反省や課題について報告する場を設け、理解啓発と信頼関係につながる機会とする。(交流学习及び共同学習担当者会議の実施) ●当日の計画において、交流のねらいを達成するための支援や活動内容の設定に互いの意見の反映が不十分であった。 ◇各学部から出た反省や来年度の方向性の把握をする。それを踏まえ、次年度の学校としての方向性を打ち出す。
	居住地校交流において、交流の目的を保護者、担任、そして相手校の担当者それぞれの理解を促し、有意義に行えるようにする。また、本校における規定を検討していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地校交流について、係内での話し合いと他校の交流学习の取り組みの情報を踏まえ、居住地校交流についての規定を作成する。 ・相手校との事前の打ち合わせの際には、児童生徒の実態や配慮事項などを伝えたり、互いに有効な教育活動が行えるような時間や場面の設定等を行うよう職員間の共通理解を図る。 	A-① D-⑧			B
地域連携	地場産業と協働した授業づくりのために、連携先を開拓するとともに相互の信頼関係を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業や地域の人材活用について調査し、職員に情報提供する。 ・各計画に沿った連携先との連絡調整を行う。 ・実施状況や結果について把握し、次年度の計画に活用できるようにする。 	C-⑤⑥	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ●進路・移行支援部との連携や青柳祭への協力依頼の際等にも情報提供することはできたが、積極的な活用にまで至らなかつた。 ◇今年度の結果について職員に周知するとともに、連携候補先を拡充して調査し、各活動内容や状況について学部学年等に情報提供を行う。 ●実施後に連携先への意見の聞き取りが不十分であった。 ◇実施結果について連携先から意見を聞き取り、該当する学部学年の反省と照合し、改善策を整理する。 ●職員への記録の所在や活用の仕方を伝達するには至らなかつた。 △実施計画と反省や連携先の資料等を整理し、校内に情報提供を ●全体への周知は不十分であった。 ◇ICT推進部と連携し、データベース化について検討し、校内に情報提供を行う。 ●地域資源マップの作成に時間がかかり、情報提供が不十分であった。 ◇ICT推進部と連携し、地域資源マップの更新や校内への情報提供を行う。
	地域資源についての情報提供をし、活発に活用した学習活動の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用推進部の協力を得て、地域連携の情報をデータベース化し、職員がいつでも共有できるようにする。 ・地域の資源マップを作成し、校内に掲示し随時情報提供をしていく。 	C-⑤⑥			B

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価		課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
	教育月間における学校公開の際に、本校の地域との取り組みについて情報発信をし、理解啓発に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 本校の紹介パネルの掲示をしたり、作業班のオリジナル製品の販売等を教務係と連携しながら計画をする。 教務係と連携し、連携先に学校公開のお知らせをし、本校の取り組みについて情報発信をする。 	D-⑧	B		<ul style="list-style-type: none"> 情報発信する場が1回しかなかった。 ◇11月の教育月間に限らず、地域連携の紹介や作業班のオリジナル製品の販売を計画し、情報発信の機会を増やす。(授業参観) ●A4サイズで配付したため掲示依頼先によっては小さくなり、周知に適したリーフレットを作成する必要がある。 ◇美術科係やICT推進部と連携し周知に適したリーフレットを作成するとともに、掲示依頼先にリーフレットのサイズを確認し配付する。
児童生徒支援部	一人一人に応じた自立と社会参加に向けて、好ましい人間関係を築き、安心して学校生活を送ることができるように、児童生徒を理解し、関係機関と連携しつつ将来に向けた支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 様々な校内のルールを作成し、児童生徒が分かりやすいように提示する。 常時、児童生徒の共通理解ができ、支援できる体制の整備をする。 安心・安全な通学方法の整備をする。 児童生徒が主体的に活動することができる児童生徒会の運営方法や特別活動の内容の検討をする。 	A-①② C-⑤	B		<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒への周知や説明する時間が十分確保できなかった。 ◇ルールをまとめた冊子を作成して定期的に周知したり、確認したりする時間を設定する。 ●学年内での共通理解は図れたが、学校全体での支援体制づくりが不十分だった。 ◇ICTを活用した情報共有を進め、共通理解のもと、全校で支援にあたるようにする。 ●一人一人のニーズに応じた自主自力通学の可能性について、十分な検討ができていなかった。 ◇一人一人のニーズを把握し、地域資源を活用した通学方法の検討をする。 ●週時程で特別活動の時間を、学校全体で同一時間に設定しているが、学年主体での活動が多く、学校全体としての有効活用ができていなかった。 ◇年間計画に活動単位と活動内容を位置付ける。道徳推進教育係と連携するなどして、様々な学習形態での活動を計画する。
旧章	ルールを守る、進んで挨拶ができる、相手を思いやる行動ができる児童生徒の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 3校のルールを基に、本校の児童生徒に適したルールを作成する。「なぜ・どうして」が児童生徒に分かりやすいように学部集会や授業で説明をする。 マナーアップ運動やいじめアンケートを実施する。 道徳教育推進係と連携し、ありがとう掲示板の作成をし、感謝をする気持ちや自尊心を育てる。 	A-①②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な規定を作成することができたが、児童生徒への周知が不十分であった。 ◇ルール等をまとめた冊子を作成して周知し、定期的に確認する時間を設ける。 ●朝のマナーアップ運動は登校時間の違いなどにより、取り組める児童生徒に限られてしまった。 ◇違う時間帯でのあいさつ運動を実施したり、日頃のあいさつを評価したりする。 ●いじめに関するアンケートやチェックリストにより、児童生徒の気持ちやクラスの状態を把握することができたが、児童生徒が普段の自分の言動を振り返られる取り組みができていなかった。 ◇学校生活振り返りシートを作成し、定期的に児童生徒が普段の自分の言動を振り返られるようにする。 ●ありがとうカードを多数募集することができなかった。 ◇ありがとう週間を設けて募集の周知をする。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
児童生徒支援	相談しやすい校内支援体制を作り、多方面から児童生徒の支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 相談シートやフローチャートを作成し、活用することで、相談しやすく迅速な対応ができるようにする。 職員会議で、情報の共有化を図り、様々な視点から個々の児童生徒を支援できるようにする。 校内支援会議の開催をする。必要に応じ、地域支援部と連携し、外部機関を活用する。 	A-①	B	<ul style="list-style-type: none"> ●校内支援会議やケース会議後の経過の記録が分かりにくかった。 ◇児童生徒支援シートをエクセル形式にし、記録を蓄積していく。 ●校内支援会議の開催方法について明確でなかった。 ◇校内支援会議が必要なケースや開催までの流れを再度整理する。 ●学年を超えた情報の共有が不十分だった ◇ICT活用推進部と連携しデータベース上での情報管理を進める。職員全体へ周知が必要な情報について整理する。
	不審者対応の知識を深め、防犯に対する意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 場面を想定した職員の訓練を実施する。 避難訓練において画像等を提示しながら児童生徒が適切な行動ができるように理解を深める。 	A-①	B	<ul style="list-style-type: none"> ●警察署から職員の不審者対応法の訓練を受けることができたが、具体的な場面を想定した訓練はできなかった。 ◇様々な場面を想定した職員の訓練を行う。(夏季休業中) ●校外での対応「いかのおすし」については、児童生徒に早めに周知することができたが、校内での不審者対応時の資料提示が遅くなってしまった。 ◇「いかのおすし」や校内における不審者対応をまとめたものを作成し、児童生徒に早めに周知する。
通学支援	安全にスクールバスを運行し、安心して登校できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 号車担当職員が運転手および添乗員と常に情報交換をする。 連絡カードを用いて管理職および担任との共通理解を図り、迅速に対応策を考える。 	A-①	A	<ul style="list-style-type: none"> ●限られた時間でのバスとの情報交換で、情報把握が十分にできないことがあった。 ◇バスと号車担当職員で連絡シートを共有し、連絡内容を明確にすることできちんと情報把握ができるようにする。 ●連絡カードの記載で、その時の対応と今後の方向性が混在してしまい、分かりにくいことがあった。 ◇今後の対応の方向性を記入する欄を別に設ける。
	自主通学生、自力通学生が安心して通学できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 係と担任間、担任と保護者間で、経路上の危険箇所等についての共通理解をし、児童生徒を支援できるようにする。 	A-①	B	
	通学中における緊急時の体制を整理し、適切な対応ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> スクールバス運行中における様々な緊急時を想定し、対応マニュアルの作成をする。 自主・自力通学生の災害時および不審者遭遇時における適切な行動等をまとめ、児童生徒に提示する。 	A-①	B	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時などにおける緊急時の対応を作成することができたが、想定以外のこともあるので、修正および追加をしていく必要がある。 ◇乗務員研修やスクールバス協議会において、緊急時対応のマニュアルの確認および見直しを行う。 ●自主自力通学時における災害時や不審者遭遇時の対応を具体的に示すことができなかった。 ◇自主自力通学時における緊急時の対応をまとめ、4月に児童生徒に提示する。
児童生徒の主体的な活動を促す体制整備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒会会則の制定をするとともに、特別活動に関する各運営方法について整理をし、体制作りをする。 児童生徒会での話し合いを通し、児童生徒自身が考え、主体となって活動する機会を多く設定する。 	A-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ●縦割りでの活動の体制整備を十分に進めることができなかった。 ◇異学年でグループを作り、校内での集会や、行事等を中心とした縦割りでの活動場面を増やす。 ●児童生徒会が主体となった企画等を実施できなかった。 ◇児童生徒会主体の企画の実施に向け、話し合い等を多く実施していく。 	

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価		課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
特別活動	文化祭において、児童生徒と地域とのつながりがもてるような活動の企画をする。	・地域連携係と連携を図り、地域の団体や企業などと連絡をとり、活動や出展等について検討していく。	C-⑤	B	B	●児童生徒会と地域とが連携した企画、出店等を実施することができなかった。 ◇ウォークラリーコースの活用やあいさつ運動などで、児童生徒会が地域と関わられるようにする。	
	児童生徒のアイデアを活用した本校のマスコットキャラクターを考える。	・児童生徒からマスコットキャラクターのアイデアを募集し、自分たちで作ったキャラクターという意識を持てるようにする。	C-⑤	A		●マスコットキャラクターの活用方法を具体的に示すことができなかった。 ◇表情のバリエーションを増やすとともに活用方法を整理する。イントラネットに「かきまるコーナー」を設け、様々な場面で活用できるようにしていく。	
進路・移行支援部	一人一人の児童生徒の状況や特性、ニーズに応じた卒業後の進路希望を実現するために、企業や福祉事業所等の関係機関と十分に連携をするとともに、移行支援の充実を図る。	・職場開拓や関係機関との連携において得た様々な進路情報等を伝達する。 ・外部機関への正しい理解啓発を図る。 ・発達段階に応じた進路指導に努める。 ・円滑な移行支援のための体制をつくる。	B-③ C-⑤ D-⑧	B		●ホームページや進路便りにおいて高等部に関する情報が多くなり、小・中学部の情報伝達が不十分だった。 ◇職場開拓及び関係機関を積極的に訪問し、得た情報をリストにして職員で見られるようにする。各学部懇談において、進路に関する情報等を伝達していく。 ●授業公開の案内が外部機関(事業所)のみになってしまった。 ◇作業学習見学会の公開日を設定し、小・中・高等学校の職員を含めた多くの外部機関に対して見学や進路に関する説明をしていくようにする。 ●小・中・高等部を通した系統性をもった進路指導が不十分だった。 ◇系統的な進路指導の系統表を作成し、働くことのような様々な体験や職場見学など全校で取り組める活動を共有する。 ●移行支援計画の書式や会議の持ち方などを決めるのに時間がかかり、職員や保護者への説明が遅くなってしまった。 ◇年度初めには職員や保護者に移行支援について説明し、安心した移行支援ができるようにする。	
進路指導	本校や本校の進路指導について外部関係機関へ理解啓発を図る。	・関係機関訪問や外部関係機関の協議会に参加し、本校や本校の進路指導について説明をし、周知を図る。 ・地域の企業や団体、地域の学校への授業公開や「キャリア教育地域連携推進協議会」を実施し、意見交換を行う。	C-⑤	B		●協議会に参加して事業所を知る機会があったものの事業所への積極的な訪問が少なかった。 ◇協議会や面接会でお会いした事業所には積極的に訪問するとともに、作業製品なども持参し、本校の取組の理解啓発を図る。 ●進路関係の授業公開の案内が実習に関わった外部機関(事業所及び福祉事業所)のみになってしまった。 ◇年間を通して進路に関する授業公開日を設定し、小・中・高等学校を含めた外部機関に対しての見学や進路に関する説明をしていく。	
	発達段階に応じた進路学習・進路指導の充実を図り、自己の進路選択に生かせるように努める。	・発達段階に応じた働くことについての様々な体験(係や当番活動、施設・職場見学や体験、現場実習等)を保護者や関係機関に発信し、キャリア教育について各部間での連携に努める。 ・卒業後の生活を意識した進路学習会(高等部)を実施するとともに、保護者や他学部職員への情報提供をする。	B-③ C-⑤	B	B	●それぞれの学部(学年)において働くことについての体験や校外学習は実施していたが、系統性をもった進路指導という点では伝達も含めて不十分だった。 ◇働くことのような様々な体験や職場見学(校外学習)の系統表をまとめて職員に伝達をする。 ●進路学習会の案内は保護者に対しても行ったが、不参加だった保護者や小・中学部職員への情報伝達ができなかった。 ◇小・中学部職員へはイントラネットを活用し、伝達していく。保護者には学部懇談において卒業後の進路についての情報を伝達していく。	

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
	職員や保護者への進路に関する情報提供の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業を含めた職場開拓を実施し、情報収集をする。 ・進路便りの発行や福祉事業所マップ等のデータベース作成等を行い、学区内の進路情報について職員や保護者に発信する。 	B-③ C-⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ●職場開拓で得た情報伝達が一部の職員のみになってしまった。 ◇職場開拓で得た情報をリストにして全職員で共有できるようにする。 ●福祉事業所マップは作成できたが、直接訪問できなかった福祉事業所においてはホームページからの情報のため新しい情報の福祉事業所マップが作成できなかった。 ◇事業所情報を得るための調査様式を作成したり、福祉事業所説明会を開催したりして情報を得たりすることで今年度のマップに削除訂正を加え、新たな福祉事業所マップを作成し、情報提供できるようにする。
移行支援 (卒業後支援)	進路先や関係機関との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育地域連携推進協議会」や福祉相談会・職業相談会において福祉課や相談支援事業所等の関係機関との情報交換を行う。 	C-⑤ D-⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ●協議会や校内作業実習の事業所公開への関係機関の参加案内を行事ごとに限定してしまったため、多くの関係機関との連携には至らなかった。 ◇学校公開や校内作業実習の授業公開日に進路に関する情報交換会も計画に入れて多くの関係機関に案内することで、連携を深める機会を増やしていく。
	円滑な移行支援のための体制づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育移行支援計画や移行支援会議の持ち方、卒業後の移行支援に必要な情報の保管の仕方を作成する。 	C-⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ●移行支援計画の書式作成や会議の持ち方、資料保管などについて作成はできたが、体制作りに時間がかかり、決定するのが遅くなってしまった。 ◇年度初めに職員や保護者に移行支援について説明し、円滑に進められるようにする。また、書式については作成途中で見直しや改善をしていく。
	卒業後の充実した生活のための支援に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活や余暇の過ごし方について関係機関と連携しながら情報提供に努める。 	C-⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ●限定された関係機関からの卒業生の様子の情報のみであり、多くの関係機関及び直接卒業生から情報収集はできなかった。 ◇進路学習会で卒業生の参加を計画し、卒業後の生活について在校生に分かるようにしていく。また事業所訪問をした際に卒業生の様子の情報を収集し職員へ情報提供をしていく。
保健安全部	児童生徒や教職員が健康や防災安全に対する理解を深めるとともに、関係機関と連携し、安全・安心な学校生活を送るための校内体制及び教育環境の整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然散策等を通じた健康づくりに取り組む。 ・食物アレルギーに配慮した安全安心な食育を進める。 ・防災ブックを作成し活用する。 ・PTAや地域と連携した教育環境整備を行う。 	A-① B-④ C-⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ●健康づくりとなるウォークラリーのコース完成に時間がかかり、継続したウォークラリーコースの活用ができなかった。 ◇各学部でウォークラリーコースを十分に活用して継続した健康づくりを行えるように健康づくりの計画を早い段階で提示していく。 ●食育についての研修が、前期に集中してしまった。 ◇年間を通じた食育に関する研修を計画し、安全・安心な食育が進められるようにする。 ●防災ブックの内容について検討を行ったが、完成できなかった。 ◇石岡市の防災ブック等を参考にしながら、本校の児童生徒の実態に合わせた活用しやすいものに整理して完成させる。 ●PTAや地域と連携した環境整備の活動は行ったが、1年間の見直しをもった活動ができなかった。 ◇環境整備の内容や参加者を明確にして、年間を通して計画的に環境整備ができるようにする。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)	
保健衛生	児童生徒が健康についての意識を高め、進んで健康づくりに取り組もうとする態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 毎日のトレーニングやウォークラリーの運動、足育指導を通して、健康カードにチェックをしていき、継続的な健康づくりを行う。 地域連携推進部と連携して、本校独自のウォークラリーコースを作る。 	A-① C-⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりにかかわる足育授業や足育週間について学期ごとの計画をバランスよく立てることができず、学期に偏りがあった。 ◇足育授業や足育週間の具体的な年間計画を年度当初に立てて、児童生徒が健康づくりに継続的に取り組んでいけるようにする。 ●地域連携推進部と連携して、ウォークラリーコースを完成することはできたが、完成時期が遅くなってしまったため、ウォークラリーコースの十分な活用ができなかった。 ◇年度当初には、2コース目を完成し、各部が健康づくりとしてのウォークラリーコースの活用ができるように活用方法を具体的に示していく。
	保護者や関係機関と連携し、児童生徒の心身の状態について正確な情報を得る。	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健委員会や面談等において、児童生徒の健康状況や感染症等について話し合い、情報を生かした問題解決を行う。 	A-①	A		<ul style="list-style-type: none"> ●学校保健委員会を開催にするにあたって、各学年への職員に質問事項等の呼びかけを行ったが、質問等が少なかった。 ◇学校保健委員会の具体的な内容を早い段階で伝え、理解をいただいた上で多くの意見等をもらい、その結果をイントラネットにのせて情報共有ができるように進める。
	緊急時において迅速な対応ができるように、職員間の危機管理意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の対応に関する研修会を充実させるとともに、学期に1回、マニュアルに応じたシミュレーション研修を行う。 	A-①	B		<ul style="list-style-type: none"> ●緊急時を想定した様々な内容のシミュレーションを行うことができたが、各部で行った反省を全職員に共有する場が十分でなかった。 ◇反省と対処方法をまとめたものをイントラネットに掲載するとともに、全職員で対処について考え、情報共有できる場を準備していく。
食育推進	食べる機能に合わせた食形態の食事を提供し、楽しみながら食べる機能の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 安全な給食指導ができるように、外部講師による教員対象とした食べる機能や食事指導についての研修会を実施する。 給食の時間において、児童生徒の姿勢や食環境、摂食等の様子を見ることで、安全に食べることができるよう、担任とともに実際の食事指導にあたる。 	A-① B-④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●外部講師に日々の給食の様子をみってもらう機会が少なかった。 ◇定期的にみてもらえるような計画を立てて、日々の安全な給食指導の実践につなげられるようにする。 ●給食中の望ましい姿勢や安全な食べ方について児童生徒への提示方法が十分でなかった。 ◇給食中の様子等から担任とともに改善策を見つけ、毎日の給食指導において、児童生徒がわかりやすい写真やイラスト等の提示を行っていく。
食育推進	家庭・学校・病院が連携し、食物アレルギーの対応を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 食物アレルギー対応チェック表を用いて事故の防止ができるよう、アレルゲンを含む料理について家庭と学校で相互に確認し、安全に食事ができるようにする。 	A-①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●食物アレルギーについて、保護者、担任、栄養教諭で数回のチェックを行ったが、搬入時のチェックが十分でなかった。 ◇栄養教諭と検食者が給食の搬入された食物について、アレルギー献立表を基に、アレルゲンの有無についてチェックするようにしていく。
	児童生徒が望ましい食習慣を身に付けることができるように意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 担任と連携し、生活単元学習や職業家庭科等で食に関する授業を行い、食習慣に興味を持てるようにする。 	B-④	B		<ul style="list-style-type: none"> ●担任と栄養教諭が連携して食に関する授業を行ったが、生活に般化できるまでには至らなかった。 ◇給食の時間等に振り返りを行っていくとともに、食育年間指導計画を事前に提示し、担任と計画的に食に関する指導をしていく。
	避難訓練や引き渡し訓練を実施し、教職員内の災害時の対応や役割分担の共通理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 様々な自然災害や状況に応じた役割を担当者が分かるように工夫した避難訓練の実施計画を作成する。 	A-①	B		<ul style="list-style-type: none"> ●シェイクアウト訓練で防災無線が入った時の対応について、それぞれの役割分担や連絡体制の整理が不十分であった。 ◇反省を踏まえ、防災無線が入った時の対応について、様々な想定をして、校内の役割分担を整理し、全職員への周知を図る。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)	
防災安全	自然災害等に備え、活用できる資料の作成を行い、防災教育の推進に努める。	・災害時に必要な情報を収集した「防災ブック」の検討, 作成を行い、児童生徒が実際に活用できるようにする。	A-① C-⑥	B	B	●防災ブックの資料を収集できたが、石岡市や近隣の防災情報が十分でなかったため、児童生徒が実際に活用するまでには至らなかった。 ◇身近に起こりそうな災害時の対応や備えについて、石岡市や児童生徒の居住地からの内容を取り入れたもので、防災ブックを完成させ、活用できるようにしていく。
	PTA組織、地域防災組織との連絡を密にし、防災及び安全管理に努める。	・PTA専門委員会の防災安全委員との連携を図り、引き渡し訓練を実施する。 ・防災対策委員会や地域防災連絡協議会を実施する。	A-①	A		●引き渡し時や非常食体験の様子をPTA委員以外の保護者に知ってもらう機会がなかった。 ◇PTA防災安全委員に協力してもらいながら、他の保護者に引き渡しの様子や内容をよく理解していただけるように、掲示や広報誌等で情報を発信していく。 ●自然災害についてのマニュアルは完成しているが、一つ一つの防災体制について学校防災委員会で話し合う機会が十分でなかった。 ◇学校防災委員会で具体的に協議する内容を提示し、全職員に周知できるように進めていく。
教育環境整備	安心安全な学校生活を送れるように、定期的に安全点検や清掃を行う。	・職員による安全点検の体制を整備するとともに、児童生徒及び職員による清掃を計画・実施する。	A-①	B	B	●安全点検であげられた箇所について、修繕のスケジュールが分かりづらかった。 ◇全体点検表の改善を図り、全職員が分かるような書式を作成し、イントラネット上に掲載して、全職員が閲覧できるようにする。
	PTAや地域と連携し、教育環境の整備を進める。	・PTAや地域連携推進部、渉外係と連携し、除草作業、清掃などを行う。	A-① C-⑥	B		●年度途中で計画となり、年間を通した計画的な除草作業をすることが難しかった。 ◇PTAや作業班と連携して、整備計画を検討していき、計画的に行えるようにする。
	学校での清掃活動やプランターづくりに加え、地域での清掃活動を行い、道徳的な心情を育む。	・教科領域道徳と連携し、小学部で校内クリーンディ、中・高等部で地域のクリーンウォークを計画、実施する。	A-①	A		●高等部のクリーンウォークでは、雨天が続き、活動内容や地域の方の参加方法について不十分な面が見られた。 ◇目的や今後の継続性を考え、地域連携推進部と話し合いを行いながら、年度始めに立案し、実施していく。
	身近な生活の安全や防災について知るとともに、基本的な生活習慣の定着をめざし、友達と仲良くし、助け合う心を育てる。	・避難訓練等を通じて、安全に関して学習する機会を設けるとともに、普段から危険箇所やヒヤリハット等の把握を行い共通理解できるような体制をつくる。 ・特別活動係や道徳教育推進係と連携をもちながら、学部集会や各学年・ブロックでの道徳で、友達と仲良くしたり、助け合ったりするすばらしさについて扱う。	A-①②	B	●避難訓練事後学習用の教材が小学部には一部難しい部分があった。 ◇学部の実態に合わせた避難訓練の事前事後学習など、安全教育の充実に努める。また、生活単元学習や学校行事と関連させていくことで、安全意識をより一層高められるよう指導していく。 ●道徳の授業の学習形態、テーマの取り上げ方に課題が残った。 ◇目標別などブロックでの道徳の導入や、学年や実態によるテーマの取り上げ方の方向性を明確にし、実施する。 ●学部集会で他学年との交流があまりなかった。 ◇学部集会は計画的に年間を通して行い、縦割りレクリエーションなど他学年との交流がもてる機会を作る。	

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)	
小学部	家庭との連携を密にし、一人一人のニーズや発達段階に応じた学習指導・支援に努め、日常生活に必要な学力の定着を図る。	・転出した学校等の資料を参考にするとともに、家庭とも連携を取りながら、一人一人の実態を適切に把握する。 ・児童の実態にあった各教科や自立活動の学習内容や支援を検討するとともに、授業デザイン研究部と連携をもちながら、視覚情報の活用など有効な授業デザインについて、研修を行う。	B-③④	B	B	●学年ごとの学習を中心に進めたが、実態に応じた学習グループを編成することが難しい時があった。 ◇学習内容によってブロックごとに習熟度別学習を行うなど、実態に応じた学習形態を検討する。 ●教科・領域等を合わせた指導と教科や自立活動との関連についての研修は行えたが、実態把握を含めた授業づくりなどの研修までには至らなかった。 ◇実態把握を含めた授業づくりなど、実践的な研修を充実させる。
	地域資源を活用した体験的な学習や地域の人々との交流をとおして、健やかな心と体を育む。	・地域連携推進部と連携をもちながら、地域資源の把握と発掘を行い、児童の実態を考慮しながら、有効な学習や交流を検討・企画する。	C-⑤⑥	B		●地域の人々との交流の設定について、難しい部分があった。 ◇地域支援マップの作成・活用など、地域の公共施設の利用できるものについて開発し、情報を共有したうえで積極的な活用を行う。またウォークラリーコース等の活用により、地域や自然と触れ合う機会を多く設定する。
	地域の幼児教育施設や小学校等との連携を深め、学校公開や協働した授業研究をとおして、特別支援教育の理解・啓発に努める。	・地域支援部と連携をもちながら、体験入学や体験学習、学校公開や合同研修会を実施し、地域の幼児教育施設や小学校と連携できる素地をつくる。	D-⑦⑧	B		●地域の人々との交流について、交流内容の検討や交流団体との連絡・調整に時間を要した。 ◇「地域資源マップ」を活用し、地域の公共施設の利用できるものについて、情報を共有したうえで積極的な交流を行う。またウォークラリーコースを積極的に活用し、地域や自然と触れ合う機会を多く設ける。
1年	安全に生活するための基本的なルールを知るとともに、基本的な生活習慣を身に付け、友達と一緒に過ごすことができるようにする。	・廊下の歩行や室内での過ごし方など、学校生活において安全に過ごす基本的ルールを場面ごとに分かりやすく伝える。 ・毎日の生活の中で、必要に応じて写真カードや具体物などを提示し、自分から取り組めるような言葉掛けを行う。 ・友達とのかかわりを重視した活動を取り入れ、友達と一緒に過ごす楽しさや安心感を体験できるようにする。	A-①②	B		●校内移動、歩行のルールについて意識できつつあるが、定着することができなかった。 ◇さらに安全に生活するためのルールを身に付けていけるように、危険認知について、どのようなことを意識すればよいか具体的に学習していく機会を設ける。 ●荷物整理、衣服の着脱等の生活習慣について、身に付きつつあるが、定着することができなかった。 ◇定着のために継続して指導を行うとともに、児童の理解力の向上に合わせて、ステップアップした力を身に付ける機会を設ける。 ●友達とのかかわりをもつ活動は行えたが、教室内の小スペースでの活動が主であったため、ダイナミックな活動が行えなかった。 ◇プレイルーム等広さのある空間で、伸び伸びと児童同士のやり取りを大切に活動を確認する。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
1年	児童一人一人の実態や学習生活上の課題から目標を設定し、学習や活動に取り組む姿勢を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 進んで活動に取り組めるよう見本や写真を提示したり取り組みの様子を称賛したりし、分かりやすく達成感の得られる学習活動を設定する。 児童の実態把握をし、学習や生活の課題を明らかにした上で目標や手立ての設定を行い、教員間で共通理解を図りながら教科指導や自立活動の充実に努める。 	B-③④	B	<p>●学習活動に興味をもって取り組もうとする姿勢が育ってきているが、集団活動でのルール理解が難しい場面があった。 ◇集団活動を展開するにあたり、守りたいルールや約束事について、イラスト等を用いて目に見えるかたちで分かりやすく提示し、児童の意識を高めていく。</p> <p>●集団での自立活動は行えたが、個に応じた取り組みはあまり行えなかった。 ◇自立活動の授業形態の見直し、活動内容の検討を行う。</p> <p>●運動量を安定的に確保していくことが難しかった。 ◇遊びの時間や自立活動において、体を使ってダイナミックに伸び伸びと活動できる機会を確保する。また学校周辺の散策や歩行学習を通し、自然の草花や田畑の農作物などへの興味関心を育てつつ体力づくりに取り組む。</p> <p>●体験入学等の期日や活動内容について、見通しがもちづらい時があった。 ◇見学、体験学習等を、より有効な機会とすることができるよう地域支援部との連携を深め、計画的に進めていけるようにする。</p>
	様々な場面で体を動かす楽しさを知り、体力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然や環境を生かした活動や、遊び、自立活動、体育など、教師や友達、または地域の方々と一緒に体を動かす機会を設け、楽しみながら様々な動きを経験できるようにする。 	C-⑤⑥	B	
	体験入学や学校公開をとおして、特別支援教育への理解を広げる。	<ul style="list-style-type: none"> 地域支援部と連携をもちながら、体験入学や体験学習、学校公開を行い、一緒に学習する機会を作る。 	D-⑦⑧	B	
2年	約束やきまりに気付いて行動しようとしたり、日常生活に必要な習慣を身に付けたりして、友達と一緒に過ごすことができるようになる。。	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活のきまりに関わる学習を通して、安全な生活に取り組めるように促す。 順番を守ったり簡単なきまりのある遊びをしたりして、友達と仲良く過ごせるようにする。 身に付けた日常生活習慣を自ら行うことができるよう促す。 	A-①②	B	<p>●廊下の歩き方などのきまりについて、できるようになりつつあるが定着することができなかった。 ◇教員間で課題を共通理解し継続して指導することで、きまりを理解し安全に生活することが定着できるようにする。</p> <p>●順番を守ったり交代などのきまりを守ったりして活動できるようになってきたが、定着することができなかった。 ◇きまりのある遊び場を設定し必要に応じてモデルを示すことで、きまりを守って友達と仲良く過ごせるようにする。</p> <p>●日常生活のことについて、できることが増えてきたが、自ら行うことはできなかった。 ◇自ら気付くことができるような環境を設定し、身に付けたことをいつでもどこでもできるようにする。</p>
	児童一人一人の実態に合った目標を設定し、興味関心をもって活動に取り組もうとすることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 教員同士や保護者との共通理解を図り、児童の実態を十分に把握して、各教科や自立活動の目標や課題の設定を行う。 活動に対する見通しが分かりやすくなるように、写真やイラスト、具体物を提示するなど、教材や授業構成を工夫する。 	B-③④	B	

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
		具体的な活動や体験をとおして体力の向上を図り, 生活に生かそうとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーニングや体育, 遊び, 散策などで全身を使った動きを取り入れ, 日常的に体を動かす機会を作る。 ・地域資源を生かした活動や体験を通して, 体力の向上を図る。 	C-⑤⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> ●日常的に体を動かす機会をつくることができたが, 運動動作や技能の向上を図ることが難しかった。 ◇教材, 教具を充実させ, 運動動作や運動技能の向上を図る。 ●学校周辺の散策やウォークラリーコースを活用してウォーキングを行い体力を向上させることができたが, 楽しく取り組める工夫が足らなかった。 ◇興味をもって毎日運動できるようなきっかけやめあてを検討し, 自ら運動に取り組めるようにする。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
3年	体験入学や学校公開をとおり、特別支援教育への理解を広げる。	・地域支援部と連携をもちながら、体験入学や体験学習、学校公開を行い、一緒に学習する機会を作る。	D-⑦⑧	B	●体験入学や体験学習などで、一緒に学習する機会を設けることができたが、ニーズに応じた内容になっていたか明確ではなかった。 ◇アンケート結果を基に、授業の印象や地域のニーズを把握し、今後の実践に生かしていく。
	児童が安心して学習に取り組めるよう、安全な教育環境の整備に努め、道徳の授業を通して友達を思いやる豊かな心を育てる。	・児童の個々の優位性に配慮して、絵カードや写真などの視覚的な情報等を活用し、児童が安心してかつ主体的に活動できるような工夫をする。 ・道徳で友達に関する内容を扱うとともに、友達とかかわる場を多く設定する。	A-①②	C	●個々の実態や優位性に応じて、視覚的な情報を有効に活用できた一方で、場面や状況によっては、ICTの積極的な活用が難しかった。 ◇引き続き視覚的な情報を有効に提示し、必要に応じてICTを活用し、児童が見通しをもって活動に取り組めるようにする。 ●「ごめんね」や「ありがとう」という言葉や行動を日常生活の中で見られる場面もあったが、思いやりの言葉とその意味が抽象的であるために理解が難しい児童もいた。 ◇単元や内容によって、実態に応じた学習グループの構成を検討し、学習のねらいに迫れるようにする。
	家庭と密に連携を図り、個々のニーズや実態に応じた学習支援に努め、日常生活に必要な確かな学力の定着を図る。	・担当教師同士が保護者との共通理解を図り、アセスメントを通して児童の個々の実態を的確に把握して、各教科や自立活動の目標を設定する。 ・RPDCAサイクルに基づいた授業を実践できるよう、教師同士がアイデアを出し合いながら視覚情報を活用するなどの改善を行い、多面的な授業評価をする。	B-③④	B	●面談や日頃の連絡帳でのやりとりを通して、家庭との連携を図ることができたが、デイサービス利用時の様子について情報の共有が難しかった。 ◇より将来的なビジョンの見直しをもつために、保護者と様々な情報を共通理解しながら児童の目標を設定し、支援に当たれるようにする。 ●国語・算数のグループ編成の細分化が難しく、個に応じた指導が十分に行えない時があった。 ◇個に応じた指導が行えるよう、学期に1度グループ編成の見直しを行う。
	地域の豊かな自然や公共施設を有効に活用し、地域に根ざした授業を取り入れ、地域資源と接することで健やかな心と体を育む。	・地域資源と接する機会を授業に取り入れ、自然体験等を通して児童が地域の人々と交流できる場面を設定する。	C-⑤⑥	A	●地域に根ざした授業実践のために地域交流を2回実施できたが、内容について実態に合った活動を設定することが難しいものもあった。 ◇交流相手との連絡を密に行い、お互いの情報を共有し、共通理解を図る。
	体験学習や学校見学等の機会をとおり、特別支援教育の理解・啓発に努める。	・児童が学習に集中できるよう教室内の環境を整え、その工夫を外部の方にも見てもらうようにする。 ・児童の活躍する姿を学級通信で情報発信する。	D-⑦⑧	B	●季節に応じて掲示を替えることができたが、学校行事等の様子に関する掲示の回数は不十分な面もあった。 ◇行事の他に足育活動の結果なども掲示して、自分たちのがんばりをフィードバックできるようにする。リアルタイムの情報発信をしていくようにする。 ●児童の学校での様子が伝わる学年通信を発行することができたが、写真が不鮮明で様子が伝わりにくい時もあった。 ◇印刷はコピーではない方法で行う。また定期発行以外に学校行事の際には特別号も発行して様子を伝えていく。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)	
4年	児童がお互いの活躍する姿を称賛, 応援する教育環境を整備し, 一人一人の実態に応じた基本的生活習慣の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に取り組む姿勢を称賛することで, 安心して学習できる環境を整える。 友達の前で発表する場面や友達同士で関わる場面を多く設定し, 言葉をかけ合ったり, 行動を共にしたりすることができるよう支援にあたる。 保護者との連携, 学年間での実態把握から, 個に応じた基本的生活習慣を把握し, 指導にあたる。 	A-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ●友達の手伝いや応援をするとグッドポイントシールをもらえるようにしたことで, 給食配膳の手伝いや体育等での応援する姿が増えたが, 手伝いや応援等が苦手な児童に対する評価場面が少なくなってしまうことがあった。 ◇今後は友達とペアになって活動する場面での評価を積極的に行い, 称賛する場面を増やす。 ●青柳祭のステージ練習など, 友達同士で見合って, 称賛や拍手を送る場面をつくったが, 称賛する場面が限られてしまった。 ◇友達同士で活躍する場面や称賛する姿を写真で掲示し, いつでも見られるようにする。 ●月に1回掃除検定を設け, 検定合格後に表彰を行い, 友達同士で称賛し合えたが, 保護者への検定の詳細説明が足りなかった。 ◇個別面談等を使って, 保護者へ掃除検定の結果やできるようにしたことを知らせ, 家庭と連携し, お手伝いとして行えるようにする。 	
	保護者や専門家との情報交換を基に, 一人一人の実態に応じた教材教具の工夫に努め, 学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者との連絡を密に行い, 実態を適切に把握し, 各教科や自立活動の目標を設定する。 ●専門家からの助言をもとに, 指導の仕方や教材教具等について, 工夫・改善を行う。 	B-③④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●給食時の様子を伝え, 食器や食具等個人に合うものを用意することができたが, 学校での食事の様子を映像で記録に撮って変化を見ることはできなかった。 ◇個別面談等で, 食事の様子を映像で見ていただき, 学校でできることと家庭でできることの情報交換を行う。 ●特定児童の姿勢や拳手の仕方について授業の様子を見ていただき, 助言をいただいたが, 映像等で記録を撮って変化を見ることはできなかった。 ◇専門家から助言をいただける場が, 定期的にあるときには, 積極的に利用する。映像等で事前説明, 事後記録をする。
	地域の公共施設や豊かな自然環境の中で体験的な学習を行い, 健やかな心と体を育む。	●地域の自然に触れる体験的な活動を多く設定し, 周辺施設等との連携や交流の機会を設定する。	C-⑤⑥	A		<ul style="list-style-type: none"> ●地域交流を設定し, 朝日里山学校の施設内でJAやさとの職員や地域の農家の方とさつまいも堀りを行うことができたが, 年に複数回行うことはできなかった。 ◇学校周辺(徒歩で行ける距離)の農家の方とも交流の機会を設け, 年に複数回活動機会を設ける。
	校外学習や保護者への学年だよりをとおして, 特別支援教育の理解・啓発に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ●充実した校外学習が行われるよう, 活動内容について十分な意見交換を行うようにする。 ●学年だよりでは, 活動の様子を写真で紹介したり, 大きな行事の予定をわかりやすく説明したりする。 	D-⑦⑧		B	<ul style="list-style-type: none"> ●小桜小学校との学校間交流では, 充実した交流を行うことができたが, 計画, 実施が夏休み以降になったため, 他の行事との兼ね合いから日程調整が難しく, 事前学習に余裕がなかった。 ◇年度初めに日程調整を行い, 事前学習に十分な時間を設ける。 ●学年だよりでは, 写真で活動の様子を心掛けたが, コピー機で印刷したときに活動の様子が不鮮明になる場合があった。 ◇配付用の学年だよりは写真が鮮明にプリントされる方法で印刷し, 活動の様子が伝わるようにする。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
5年	集団活動の場をおとして、助け合う心と社会性を養うとともに、主体的に行動しようとする態度を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動でのルールを分かりやすく伝えることで、安心して活動に取り組めるようにする。 ・学校行事や特別活動、他学部・学年との活動の場を利用し、児童相互が積極的に関わられるようにする。また、児童が主体的に考える場面を多く設定する。 	A-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ●学年単位での指導、ワークシートを用いた学習が主となっていたため、異年齢集団や、公共の施設での実践的なルールの指導ができなかった。 ◇児童の実態に応じた支援方法を探求し、ルールの定着、安全安心な活動を継続して実施できるようにしていく。 ●行事を除く、全校集会や学部を超えての活動の機会があまり確保できなかった。 ◇縦割りで活動できる場面を増やしていくとともに、行事の準備等の場面で主体的に考えられる場面を設定していく。
	成功体験を通して、学習や身の周りの事象への興味関心を育てるとともに、学習した知識・経験を日常生活に生かせるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の実態を的確に捉え、各教科や自立活動を横断的に計画・実践する。 ・学習環境を整え、視覚的な情報を活用するなど、分かりやすく、扱いやすい教材教具を工夫する。 	B-③④	B	<ul style="list-style-type: none"> ●クラス単位や固定したグループでの学習が中心となってしまう、多様な形態での学習があまり実施できなかった。 ◇自立活動における個々の目標を明確にし、より効果的な学習形態での学習を進める。また、各教科をはじめ、学校生活全体で統一のある指導を行っていく。 ●ICT機器の利用がパワーポイント中心になってしまい、活用の幅を広げることができなかった。 ◇ICTの効果的な活用方法や個に応じた教材をより工夫していく。
	自然との触れ合いをはじめとした、体験活動を多く取り入れ、心身の調和的発達を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然に触れる機会を多く設定するとともに、周辺施設等との連携を図り、体験活動の充実に努める。 	C-⑤⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣施設や地域の自然に触れる機会が、限定的になってしまった。 ◇周辺施設等の活用をいっそう進めていくとともに、学校周辺に出での自然体験もより充実させていく。
	中学部との連携を意識し情報を共有するとともに、学校公開や掲示物の充実等により学校の情報を分かりやすく伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部と連絡を密に取り、学部間の交流活動を実施することで情報を共有できるようにする。 ・学校公開や掲示物の充実により、来校者に学校の情報を正しく発信できるようにする。 	D-⑦⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ●学部間で交流をしながら活動する機会をあまり確保できなかった。 ◇行事等をはじめとし、縦割りで活動場面等を設定していく。 ●図工や生活単元学習、行事の掲示物が中心となり、掲示内容に偏りが出てしまった。 ◇学校生活を正しく理解できるように、掲示物の教科間の偏りを無くするとともに、分かりやすい掲示方法や掲示物の工夫をし、情報の可視化を今まで以上に行っていく。
	よりよい基本的生活習慣の確立を目指すとともに、安全に関する知識を構築し、ルールやマナーを守りながら友達と一緒に健やかな生活を送ることができる力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な大人の指示に従って適切な行動ができるよう、身の回りの生活の安全や交通安全、防災に関する知識を学ぶ機会を設定する。 ・一緒に行動する力や友達を思いやる心を育成するために、道徳や学級活動、自立活動等で集団活動を多く取り入れる。 ・基本的生活習慣について、家庭の協力を得たり、栄養教諭や養護教諭と連携したりしながら指導にあたる。 	A-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ●安全や防災の知識は習得しつつあり、自分がどのように行動すればよいか理解できるようになってきているが、実践場面では、平常心ではいられず、正しい行動をすることができない時がある。 ◇身の回りの生活の安全や交通安全、防災に関するロールプレイや訓練を通して、実践する力を身に付けていく。 ●集団のマナーやルールに関する知識や思いやりの心は習得しつつあるが、日常生活では自分の欲求や思いを通したいという気持ちが強くなることもあり、マナーやルールを守れない時がある。 ◇様々な場面で取り入れた集団活動で築いてきた友達への意識を、更に高めていけるようにする。 ●成長に伴い、急激に体重が増加した児童が多かった。 ◇肥満防止や健康維持の観点から、栄養教諭や養護教諭と連携して、保護者に働きかけたり、児童に指導をしたりする。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)	
6年	<p>児童の実態や将来像について家庭と共通理解を図り、児童の願いをふまえながら教育的ニーズを把握したり発達段階を考慮したりしながら、優先順位を決定して支援にあたる。</p>	<p>・前籍校の資料を参考にし、保護者と連絡を密に取りながら実態を確認し、小学部段階で獲得させたい力を保護者に具体的に提示した上で、児童や保護者の願いを踏まえて、各教科や自立活動の指導方針を決定する。 ・RPDCAサイクルに基づいた授業改善を行い、視覚的な情報を有効に活用するなど、児童に分かりやすい授業を目指して支援にあたる。</p>	B-③④	B	<p>●個別面談の機会に、保護者から家庭での様子や児童の将来像、保護者の願いを聞き取り、教育支援計画を作成できたが、限られた時間の中で行ったので、保護者の思いや考えを全て聞き取ることができなかった。 ◇個別面談前に、個別の教育支援計画と指導計画を事前に渡し、読んできてもらった上で個別面談に臨む。前年度末に、保護者の願いを紙面で提出してもらい事前にある程度願いを把握しておく。 ●児童の実態把握は十分にできたものの、それに伴う目標設定や授業の展開などは改善の余地がある。 ◇目標設定をする際には学年で十分に話し合ったり、授業展開を改善する際には動画で録画して見直したりする。</p>	
	<p>学校周辺や石岡市の自然や地場産業、公共施設等についての学習を通して、地域の特色の理解と地域への愛着を育成する。</p>	<p>・生活単元学習において、学校周辺の地域や市について、特色ある地形や土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働きについて調べたりまとめたりする。 ・地域の人々との交流や、地域の社会見学等での体験的な学習を通して、地域の良さを発見できるようにする。</p>	C-⑤⑥	B	B	<p>●石岡を題材にした学習を、生活単元学習や図画工作の授業で多く取り扱い、公共施設や生息する生物、特産品を理解することができたが、地形や土地利用までは学習できなかった。 ◇地形や土地利用についての学習をし、それが特産物や生息する生物とどのような関係があるか考える学習を行う。 ●石岡警察署の見学は行い、警察署の方に仕事内容や働くことについて質問することができたが、地域の人々との交流はできなかった。 ◇地域の良さを実感できるような体験学習や、地域の方と一緒に活動を多く取り入れる。</p>
	<p>中学部との連携を行うとともに、体験入学や学校公開、地域の小学校からの学校見学の際には協力し、特別支援教育の理解・啓発にあたる。</p>	<p>・中学部への進学を踏まえ、中学部体験を実施する。 ・教室環境を整えたり、児童の作品等の学習成果を掲示したりして、教育的効果を上げる環境や工夫等を示す。 ・授業や指導方針、支援方法について質問があった際には、分かりやすく答える。</p>	D-⑦⑧	B	<p>●中学部から始まる新たな授業は作業学習以外に2教科あったが、作業学習のみの体験・見学であった。 ◇中学部体験では、作業学習以外の職業家庭・総合的な学習の時間についても別日に見学できるようにする。 ●教室環境を整え、児童の作品や学習でのまとめは、廊下や教室内にたくさん掲示したが、学習の過程や児童の成長の様子が見て分かるような工夫までは至らなかった。 ◇作品や学習のまとめの資料の横に、学習のねらいや児童の成長の記録を掲示するようにする。 ●授業等の見学は、依頼があれば快く受け入れ、児童もいつもの授業の様子を見せることができたが、授業中であつたので、質問に十分に答えることができなかった。 ◇授業でねらう力や教師が授業で大切にしていることなど、見て分かる板書や掲示を心掛ける。</p>	

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
中学部	身近な生活の安全や防災に理解を深めるとともに、基本的な生活習慣の確立を図り、相手のことを思いやり、進んで親切にする心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 安全・防災に関する学習場面を設定するとともに、整理整頓された教室環境等の整備に努める。 「道徳」の授業をとおして、自ら考えたり、主体的に判断して行動したりする場面を多く設定し、友達を思いやり、親切にしようとする気持ちの育成を図る。 	A-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ●学習しやすい、安全な教室環境の整備について、意識はしてきたが、まだ不十分な面がみられた。 ◇整理整頓、教室環境の整備については、引き続き意識をしていけるようにし、気付いた時にはお互い声を掛け合うようにする。 ●道徳の授業においては、学年裁量で、他学年の授業を見る機会が少なかった。 ◇道徳の授業実践を部内で共有しながら、相互参観や略案の蓄積をしていく。
	小学部(小学校)までに培った学力をもとに、日常生活の中で活用できる学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動や国語・数学の時間をとおして、生徒の実態を的確に把握し、学習目標に応じた指導形態や指導体制を工夫するとともに、タブレット等ICT機器を効果的に活用しながら日常生活に必要とされる基礎的・基本的な能力の育成に努める。 学習したことが般化されるよう、日常生活の中でも生かせるような学習場面を設定する。 	B-③④	B	<ul style="list-style-type: none"> ●自立活動や国語・数学の学習では、個別の指導より、集団での指導場面が多くなってしまった。 ◇より個に応じた指導体制ができるよう、グループ編成を工夫していく。また、日常生活での活用を意識した実践を積み重ねていく。 ●タブレット等、ICT機器を積極的に活用できなかった。 ◇液晶モニター等、学習活動に積極的に活用できるよう年度初めに確認をし、使用時期や回数など、より具体的に計画を立てるようにする。
	地域の社会見学や地場産業を生かした体験活動や地域交流をとおして、働くことへの関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習をとおして、地域の職場見学や体験を実施し、身近で働く人達との交流を図る。 作業学習をとおして、働きたいという意識を高められるような状況を設定した上で、働くために必要な基礎的・基本的な能力の育成を図る。 	C-⑤⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> ●進路に関する校外学習は系統立てて実施することができたが、身近で働く人達との交流は深められなかった。 ◇校外学習を計画する上で、身近で働く人達と交流できる場面を設定していく。また、職業や生活単元学習との関連も意識した年間指導計画を作成する。 ●作業学習において、高等部との連携、系統性について深められなかった。 ◇年に数回、高等部と話し合う機会を設定し、定期的に話し合いの時間を設けるようにしたり、作業学習の見学会を実施したりする。また、高等部と連携をしながら年間指導計画を立てるようにする。
	地域の小学校や中学校等との連携を深め、学校公開や協働した授業研究をとおして、特別支援教育の理解・啓発に努める。	<ul style="list-style-type: none"> いつでも公開できるような学習環境を整備しながら、地域の方や近隣の学校等へ積極的に情報を発信し、理解・啓発をしていく。 学習の様子を伝えるために、必要かつ精選された掲示物を提示する。 	D-⑦⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校への情報発信は、あまり積極的には行うことができなかった。 ◇HPにおいて定期的に日常の様子を伝えるようにしていくとともに、新たに中学部説明会を実施し、本校の中学部についての理解啓発を進めていく。 ●中学部の学習の様子を伝える掲示物を定期的に替えていけなかった。 ◇少なくとも学期に1回は掲示物を替え、学習の様子を適宜伝えていくようにする。
	中学部の生活に慣れ、生活の流れや活動に見通しをもちながら、挨拶やきまりを守るなど、集団行動の基礎的態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 活動の流れに見通しをもって取り組むことができるよう、シミュレーションで視覚的にも分かりやすい教室環境を整備し、言葉かけの工夫や改善等、適宜を行う。 ●集団活動の意識を高められるよう、教師が率先して挨拶をしたり、きまりや目標を事前に確認したりする。 	A-①②	C	<ul style="list-style-type: none"> ●活動に見通しをもって生活できたが、自分から進んで挨拶する態度を身に付けることに課題が残った。 ◇挨拶ができればその場で即時評価を行い、挨拶をする習慣の定着を図っていく。 ●集団での活動場面において、教師の言葉掛けが多く見られた。 ◇指導する場面・見守る場面を適宜設定し、生徒が自主的に活動できるような状況を作っていく。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
1年	生徒一人一人の教育的ニーズに応じた学習内容や手立てを工夫し、ICT機器を活用することで、学習に対する意欲の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間をおとして、生徒一人一人の学習課題を把握し、教材や提示の仕方などの支援方法について教師間で共通理解を図り、一貫した指導や評価を行う。 学習への意欲を高められるよう、「できた」という成功体験を大切にし、「またやってみよう」という気持ちを育てていく。 	B-③④	C	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒一人一人の課題を教師間で共通理解し、授業を展開することで、少しずつ授業改善されてきたが、更なる見直し・改善が必要である。 ◇生徒一人一人の日常生活での困難さを詳細に把握し、教材や提示方法を個別に特化したものに工夫、改善していく。 ●ICT機器を活用して授業を展開したが、成功体験につなげていくことが難しかった。 ◇生徒がICTを積極的に活用し、成功体験につながるような授業づくりを計画する。
	様々な体験活動を通して、働くことへの意欲や技能の向上を図り、社会参加の基礎的スキルを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 授業や行事等において、体験的な活動を働くことと関連付けていながら、学習の場を設定していく。 ●達成感や充実感を得られるような学習内容を工夫し、社会参加の基礎を育てていく。 	C-⑤⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な仕事を体験的な活動で知ることができたが、働くことにつなげていくことに課題が残った。 ◇委員会やグリーン作戦等、日常生活の中で、人の役に立つ体験を、働くことへの意識につなげていけるようにしていく。 ●学習内容を工夫して取り組めたが、社会参加の基礎を育むことに課題が残った。 ◇校外での活動や社会を意識した体験的な活動を充実させるための授業づくりを計画していく。
	保護者と連携を図りながら、学習環境の整備及び情報発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ●学級だよりを定期的に発行し、保護者等へ様子を伝えるようにする。また、掲示板を充実させ、学習の様子も合わせて伝えていく。 ●小学校や小学部からよりスムーズな移行ができるよう、連携を図りながら、体験学習の充実に努める。 	D-⑦⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ●学年の掲示板は定期的に替えて掲示できたが、作品の掲示が多く、学習の様子を伝える場面に全体的に少なかった。 ◇作品の掲示と学習の様子を伝える掲示をバランス良く計画して掲示をするようにし、保護者へも適宜掲示の状況を伝えるようにする。 ●中学部の生活に慣れるように、保護者と連携しながら体験的な学習の充実に努めてきたが、細かな連携を図ることに課題が残った。 ◇よりスムーズな移行ができるように、詳細にわたって連携を図り、共通理解のもと、学習の充実に努めていく。
2年	基本的な生活習慣やマナーの確立、安全・防災の理解に努め、中学生としての自覚を高めていけるような段階的・継続的な支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ●着替えや掃除の仕方、言葉遣い、友達との関わり方、学校生活を安全に過ごしていくにはどうすべきか等、適宜授業で取り上げていく。その内容を繰り返し指導することで、基本的な生活習慣の確立に努める。 ●学習した内容を保護者に伝え、保護者と共通理解することで基本的な生活習慣の定着を図る。 	A-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な生活習慣やマナーや防災への意識について、授業や避難訓練を通して学んでいるが、全体への定着はまだ至っていない。 ◇2年生での学びを生かし、繰り返し指導・支援を行い、定着を図っていく。 ●連絡帳を中心に学習の様子を各担任から伝えているが、保護者と共通理解のもと定着を図るまでは至っていない。 ◇学習等で身についた力等、連絡帳だけでなく、面談でも、生徒の様子を伝えながら、家庭と共通理解を図っていく。
	生徒の障害の程度や発達段階を踏まえ、身につけた力を日常生活で活用できるよう、生徒の学習意欲を高めるとともに、ICT機器を活用しながら基本的な学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●自立活動の時間をおとして、一人一人の障害特性や発達段階を教師間で共有し、個別の指導計画を十分に活用しながら、課題に対する共通理解を高める。 ●日常生活で必要とされる学習内容を精選し、より効果的な支援をしていく。 	B-①②	C	<ul style="list-style-type: none"> ●クラスでの自立活動の時間の取り組みとなつてしまい、生徒一人一人の実態の共有が難しかった。 ◇生徒一人一人の実態を把握できるよう、実態に応じたグルーピングを行う等、教員間で共通理解を図れるようにし、学習環境を整えていく。 ●必要とされる学習内容の精選まで至らなかった。 ◇日常生活に般化していける学習内容を検討し、校外学習などを積極的に進めていく。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
	地域との交流等, 様々な体験を通して, 将来の社会参加の方法を知り, 地域や社会に関わっていくとする態度や技能を育てるとともに, 地域で働く人の様子を知り, 働くことへの興味・関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 各行事をとおして, 他者を尊重し, 自己の個性を發揮しながら, 自分の考えを適切に伝えられるように支援し, 協力して物事に取り組んでいく場面を設定する。 地域社会での過ごし方について話し合う機会をもち, 将来の豊かな生活設計について考える場を設定していく。 	C-⑤⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ●地域社会での過ごした方や将来について学習するために計画したフラワーパークでの職場体験を予定していたが, 天候不順のため実施できなかった。 ◇交流学習を通して, 地域の方々とのふれあいや施設の利用を行い, かかわりあいの場を設け, 地域で働く人たちの様子を確認していく。 ●地域社会での過ごし方について, あまり取り上げて学習に取り組むことができなかった。 ◇総合的な学習の時間や生活単元学習において, 地域を取り上げた学習を計画し, 取り組んでいく。
	情報発信する場を多く設定し, 生徒の良さを伝えたり, 学習成果を伝えたりすることで特別支援教育の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳や学年だより等で, 随時学習の様子を伝えていく。特に, 頑張ったことや良かったことを伝えるようにすることで, 自己肯定感を高められるようにする。 学年掲示板を有効活用し, 日々の学習の様子が伝わるようにする。 	D-⑦⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ○連絡帳等を通じて, 学校での様子を適宜伝えていくことができたが, 生徒の自己肯定感を高めていくことにつなげていくことができなかった。 ◇生徒の良いところは, 保護者だけでなく生徒にも返していき, 自己肯定感を高められるようにする。 ●学年掲示板の活用は少なかった。 ◇生徒の活動の様子を学年掲示板に定期的に掲示していくように取り組む。
3年	生活安全や生活習慣, 人への思いやりについて, 具体的な活動を通じた指導を行い, 生徒が自ら主体的に取り組める力や態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 場に応じたマナーやルール, 身だしなみ, 場に応じた適切な言動・態度などに関する支援を, 個々の実態や課題に応じて継続的に行う。 意欲を高められるよう, できるだけ生徒の生活場面や興味・関心に即した学習課題を設定する。 	A-①②	A	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳や生活単元学習の時間を中心に, 場に応じたマナーやルール, 適切な言動・態度や身だしなみ等について指導したが, 個に応じた手立てについては検討が必要である。 ◇生徒の実態に応じた手立てを引き続き検討していくとともに, より具体的で生活に生かせるような活動の充実を図っていく。 ●生活場面と関係した学習内容を行ったが, グループによっては十分でなかった。 ◇生活場面を取り上げた学習に積極的に取り組むようにする。
	個々の指導計画に基づいた適切な支援・評価を行うことで, 生徒の学習意欲を高めながら, 日常生活の中で活用できる学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動や国語・数学の時間をとおして, 生徒一人一人の実態や課題を的確に把握し, 個に応じたより適切な支援を行う。また, 自己評価や他者評価を有効に活用しながら, 毎時間, 必ず授業の振り返りを行う。 タブレット等ICT機器を効果的に活用しながら, 生活に即した活動を取り入れるとともに, 成功体験場面を多く取り入れ, 成就感や達成感を味わえるようにしていく。 	B-③④	B	<ul style="list-style-type: none"> ●全体を通して個に応じた支援を行ってきたが, 評価の方法については十分に検討して行うことができなかった。 ◇授業における自己評価, 他者評価の実践を積み重ねながら, 生徒の実態に応じた効果的な評価のあり方について検討していく。 ●パソコンやモニターを使用して内容を提示するような授業は行ってきたが, タブレット等を生徒が活用するような活動は少なかった。 ◇ICTを活用する授業を計画段階で設定し, 成功体験ができるような環境をつくっていく。また, 活用方法について教員研修を行う。
	様々な体験活動や地域社会での活動を通して, 働くことへの関心を高め, 将来働くために必要な力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割の遂行や各行事への参加をとおして, 自己の個性を發揮しながら他者と協力して物事に取り組むようにする。 保護者や地域, 関係機関と連携を図りながら将来の生活や働くことについて考える機会を設ける。 	C-⑤⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ●文化祭や修学旅行に向けての活動で協力して活動したが, 個性を發揮するという視点は不足していた。 ◇詳細な実態把握をした上で, 教育活動全体を通して個性を生かした活動に意識的に取り組んでいく。 ●進路に関する校外学習を中心に, 将来を意識した学習を行うことができたが, 保護者に進路の情報を提供したり, 話し合ったりすることが不十分で, 連携を図りながらの指導には課題が残った。 ◇保護者への情報提供の内容や方法も含め, 中学部における進路学習の系統立てた計画を検討し, 実践を重ねていく。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
	掲示物を充実させたり、発表場面を多く設定したりすることで、中学部最高学年としてのより良い姿を伝えていき、特別支援教育の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって発表できるよう、学習成果発表の場や集会での司会進行等、人前で発表する機会を多く設ける。 ・高等部との連携を図りながら、高等部見学や体験を充実していき、よりスムーズな移行へつなげていく。 	D-⑦⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ●さまざまな発表場面を設定することができた。より個の実態に応じた発表のあり方について検討が必要である。 ◇生徒の実態に応じたより効果的な学習成果の発表方法について研修をしていく。 ●高等部への移行については、高等部見学や体験のスケジュールを把握するのが遅れてしまい、事前学習の計画が遅れてしまった。 ◇今年度の実践の反省をしながら、他の進路に関する学習も含めて計画的に実施する。
高等部	自ら安全に生活するために必要な事柄を考え行動できる力を身に付けるとともに、働くことや公共のために役立つことをする心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活を安心して過ごすために教室環境の充実とともに生徒の特性等を教師間で共有し生徒、保護者、教師との信頼の定着を図る。道徳の教科化に伴い支援・指導の有効に活用し、充実した支援に努める。 ・安全・安心に関する内容について、道徳の授業をとおして身につけ実践に生かせるようにする。 	A-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳の授業を通して、安全・安心に関する学習を行う際、学年で行うことが多くなってしまった。 ◇生徒の実態に応じたグループでの学習を取り入れるようにする。 ●学習評価(道徳)の安全・安心に関する観点の整理が十分でなかった。 ◇年間指導計画を基に、単元ごとに評価の観点を確認していく。
	中学部(中学校)までに培った学力をもとに、卒業後の生活を想定した学習内容を精選し、社会生活で必要な学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部(中学校)段階でのキャリア発達を踏まえ生徒一人一人の実践を的確に把握し生徒から「気づき、考え、実践」することのできる授業展開を行い、社会での生活に生かすことのできる能力を育てる。 ・学習活動や日常生活の経験を卒業後にも生かせる場を行い実践に結びつけられるようにする。 	B-③④	B	<ul style="list-style-type: none"> ●進路に関する学習に関して職業の時間だけでは、十分な指導ができないことがあった。 ◇内容によっては、他の教科や合わせた指導との関連などと結びつける工夫をする。
	現場実習や地域交流等とおして、自立と社会参加に必要な技能や態度の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会規範やルールを理解し、社会的な対人関係を築くとともに自立活動や職業的な学習においても集団活動を円滑に進める力としてのコミュニケーション能力を高める。 ・現場実習等で今必要とされている能力の育成を図る。 	C-⑤⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> ●校内・現場実習では、地域のネットワークづくりに時間がかかった。 ◇今年度の実績を基に、地域の企業や事業所、保護者と連携し、自立と社会参加に向けた生徒の課題を明らかにする。
	地域の中学校や高等学校との連携を深め、学校公開や協働した授業研究をおとした特別支援教育の理解・啓発に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流や学校公開等の場面を積極的に生かし、地域の方々との交流する機会を増やすことで地域との密接な関係を築く。 ・活動した内容を外部へ正確に発信し、理解・啓発をしていく。 	D-⑦⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ●学校間交流では計画から実施までの期間が短く、お互いの情報交換の場が少なかった。 ◇相手校との打合せを早い時期に行い、お互いの学校との情報交換と共通理解を図り、事前・事後学習を充実させる。 ●高等部説明会を実施したが、地域の中学校への十分な情報発信ができなかった。 ◇ホームページにおいて、定期的に学習の様子を伝え、地域の中学校をはじめ、地域の企業や事業所等への本校高等部の理解・啓発を進める。

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
1年	学校生活における自らの役割や安全な生活に必要な行動を考え、個々が主体的に活動に参加する力や態度を養う。	・新しい集団における所属意識をもち、自らの役割を果たしたり友達と協力したりして安全な生活が確保できるよう適切な活動や支援の場面を設定する。	A-①②	A	●学級活動や各行事では、友達と協力する場面を設定する機会が少なかった。 ◇学級活動や各行事に加え、道徳や他教科の授業においても、友達と協力する場面を増やす。 ●自立活動において、実態把握に基づいた目標を設定し学習したが、ICT機器の十分な活用ができなかった。 ◇今年度の学習評価を基に教育内容を精選し、個に応じたICT活用ができるようにする。 ●体験活動や施設見学において、あいさつや返事、報告等の基本的な行動について学習したが、個別の課題に応じた学習時間が少なかった。 ◇今年度の学習状況について生徒及び保護者と確認することで、個に応じた卒業後の進路や次年度の現場実習に向けた必要な支援を行っていく ●地域の方との交流や地域貢献について学習したが、自ら積極的ににかかわる態度を育てることができなかった。 ◇様々な方々と交流する機会を設定し、他者との適切なかかわり方を身に付けることができるようにする。
	個々の実態に応じた課題を自立活動に反映し、将来の社会生活に必要な基礎的な学力や体力の向上を図る。	・生徒一人ひとりの実態や家庭生活等を的確に把握し、個々に必要な目標を設定し自立活動を展開する。また、各学習活動において効果的にICTを活用し、指導支援評価を実施し、成果や課題の見直し改善に努める。	B-③④	B	
	校内実習や地域交流等とおして、将来の自立や社会参加に必要な知識や技能、態度の育成を図る。	・体験活動とおしてのルールや学校内のルールを学習を実施し、個々の将来の生活やそれに必要な基礎力等について、職員間や家庭等との情報共有や連携を図りながら適切な指導支援に努める。	C-⑤⑥	B	
	様々な人や集団とのかかわりをおして、自己理解や他者受容を促し、良好な人間関係に必要な基本的な力や態度を養う。	・地域住民との共同学習を実施し、所属集団や他者に対する理解を深めたり、自ら相手にかかわろうとしたりすることができるよう適切な学習活動や支援の確保に努める。	D-⑦⑧	B	
2年	生徒の個性を尊重しつつ、安心・安全な環境で、かつ、規律ある雰囲気のもと、自ら進んで活動に取り組む、最後までやり遂げる態度を養う。	・生徒同士のかかわりから、集団意識を高め、相互理解を深めながら友達と協力し助け合い、自主的・主体的に学習に取り組み、集団生活の中において安全に生活する力を養うようにする。 ・個々生徒の気持ちの動きや感情の変化を大切に受け止めることで自分を取り巻く環境にも、より自発的・能動的に働きかけることができるようにする。	A-①②	B	●友達との話し合い、協力し合い、助け合いなど、教師からの促しを受けてからの行動が多く、自主的・主体的な取り組みが少なかった。 ◇総合的な学習の時間や自立活動において、主体的に取り組む態度を育てるようにする。 ●道徳の学習では、相手の気持ちを考えて行動することについて学んだが、実際の行動に移せないことがあった。 ◇実生活場面を想定した学習を通して、相手を思いやる気持ちや約束・規律を守ることの大切さを継続して学び、行動できるようにする。 ●生徒一人一人の実態に即した目標や指導内容の工夫に努めたが、ICT機器を活用した授業の展開したが、積極的な活用には至らなかった。 ◇学習活動や指導内容の中で、授業を展開する指導者がICTの知識を身に付け、生徒の実態を正しく把握した上で、適切に活用する。 ●個々生徒が、意欲的に体を動かしたり、体力を高めよう意識が高められなかった。 ◇個々に具体的な目標を設定し、視覚的に自己評価できる取り組みを行うことで、より意識して体を動かす場面をつくり、体力を高めようとする意識を持てるようにする。
	個々のニーズに応じた課題を設定し、基本的な学力の向上及び体力や運動能力の向上を図る。	・生徒一人一人の実態を的確に把握し、個々のニーズに応じて具体的な目標を設定し、指導内容や指導方法を工夫しながら適切な指導・支援を心がけICTを利用した授業の展開に努める。 ・自立活動の場面において、健康の維持や体力の向上を図るため、体を動かす場面を多く設けるようにする。	B-③④	B	

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
	<p>将来の自立や社会参加に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、任された仕事は最後まで責任をもってやり遂げる力を培う。</p>	<p>・学習全般において、一人一人の実態に即した内容、教材、方法等の工夫に努めるとともに、目的意識をもって意欲的、主体的に取り組むなど自発性を引きだせるような課題の設定に努めるようにする。 ・生徒が自ら考え、自主的・主体的に行動できるような言葉かけや環境づくりの工夫に努めるとともに、自発的な行動を大いに称賛しながら、できた喜びを自信につなげていくようにする。</p>	C-⑤⑥	B	<p>●作業学習や校内実習、現場実習など、長時間の活動に対して集中力を欠いてしまうことがあった。 ◇実習などで働く大変さを知ることで諦めずにやり遂げる大切さを学べる指導計画を作成するようにする。 ●挨拶・返事・報告など、教師の促しを受けてから行動することが多く、自主的・主体的な活動することができなかった。 ◇生徒の実態や特性を理解した上で、指導方法を精選し、自発性を引き出すような指導内容や支援方法を工夫・検討して実践する。</p>
	<p>他者との関わりを通して、場に応じたコミュニケーションの能力や好ましい人間関係の育成を図るとともに、助け合い、協力し合って活動する態度を養う。</p>	<p>・地域交流や学校間交流での積極的な活動をとおり、学校外の他者と関わる機会を設けることで、相互理解を深めたり、信頼関係を築いたりすることができるようにする。 ・ホームルームや係活動、清掃活動など友達と協力し、助け合いながら活動する場を設定し、集団の一員であることの自覚を促すとともに、それぞれが実態に応じたコミュニケーション手段を拡充していけるようにする。</p>	D-⑦⑧	B	<p>●将来の進路を想定した施設・職場見学、及び、現場実習を優先として考慮したため、幅広く地域の方々と相互理解を深めることができなかった。 ◇交流を行う地域の方と、実施時期に応じた活動場所や内容など、積極的な交流となるよう、十分な打ち合わせを行い、信頼関係を築けるような計画を立てて実施する。 ●給食の準備や配膳、片付け、清掃活動など、日々の学校生活で行うことに対しては協力した活動ができるが、経験の少ない活動は消極的であった。 ◇自分の役割以外の係活動など、どんな些細なことに対しても、進んで取り組むように指導・支援をすることで、経験を自信につなげる。</p>
3年	<p>生徒の実態や適性に応じて、安全に生活できる力を身につけるとともに、好ましい人間関係を意識し、相手を思いやる心など、社会人として必要な力を養う。</p>	<p>・安全な学校生活を送れるよう、日々の環境設定を充実させる意識を教員間で高めていく。一人一人の実態に応じた適切なコミュニケーション手段を身につけ、生徒同士の理解を深めることができるようにする。 ・道徳の時間を通して、相手を思いやる豊かな心の育成を図る。</p>	A-①②	B	<p>●生活単元学習、道徳、職業の時間を活用し、安全・安心な生活を送れるような学習を行ったが、個に応じた指導の時間が十分とれなかった。 ◇スマートフォン、SNSの正しい利用法や危険性など安全に生活できる力を身に付けることができるよう、家庭との連携を図る。 ●道徳の授業で自分で考える場面を十分にとることができなかった。 ◇生徒自身が考える場面を設定し、学んだことが生活の中に取り入れられるような指導内容を検討する。</p>
	<p>生徒一人一人の実態を的確に把握し、卒業後の生活を想定した学習内容を精選し、ICT教材を効果的に使用し、礎学力の定着を図る。また、自立活動の時間の指導をとおり社会参加の基礎的な力を養う。</p>	<p>・各授業でICT教材を積極的に使用し、わかりやすく興味関心を高められる授業を展開する。 ・自立活動の時間の指導を通して、生徒個々の特性を把握し、進路選定へ生かしていけるようにする。</p>	B-③④	B	<p>●ICTに関する教材を十分に活用することができなかった。 ◇生徒の実態に応じたICTの活用する方法について検討する。 ●自立活動では、円滑なコミュニケーションを図ることに時間がかかり、個に応じた課題について十分な時間がとれなかった。 ◇他の教科と関連させ、学習内容を工夫することで、生徒の実態に応じた学習計画を立てるようにする。</p>
	<p>現場実習や地域交流を通して、社会参加に必要な技能、態度を育成を図り、地域社会で生活していく意識を育てる。</p>	<p>・自立と社会参加へ向けた指導の工夫を行い、生徒個々のニーズに応じた、将来の生活を想定した学習を展開する。 ・体験的な学習の場を設定し、社会規範やルールを理解し、集団生活を円滑に進めていける力を育成する。</p>	C-⑤⑥	B	<p>●進路に関する学習の時間が十分に確保できなかった。 ◇各教科と関連を図り進路決定の状況に合わせて、計画的に個に応じた進路に関する学習ができるようにする。 ●体験活動において、自ら積極的にかかわろうとする態度を育てることができなかった。 ◇様々な方々と交流する機会を設定し、他者と適切にかかわる力を身に付けることができるようにする。</p>

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
	<p>様々な人とのかかわりを通して、場に応じたコミュニケーションの能力や好ましい人間関係の育成を図るとともに、協力し合って活動する態度を養う。</p>	<p>・現場実習や交流学习, 学校外での活動を通して, 地域で生活していく生徒たちの情報を発信し, 卒業後の生活の場での理解を広げていけるよう支援する。 ・友達同士で協力し, 助け合いながら活動する場を設定し, 集団の一員であることの自覚を促すとともに, それぞれが実態に応じた多様なコミュニケーションを獲得できるように支援する。 ・地域交流や学校間交流など, 他者と関わる機会を設け, 積極的な活動をとおして, 相互理解を深めるようにする。</p>	D-⑦⑧	B	<p>●ホームページを活用して情報を発信することができなかった。 ◇授業で取り組んでいる内容について発信できるようにする。 ●友達同士で協力するしたり, 助け合う場面を設定することができなかった。 ◇自立活動や職業, 道徳などの教科の中で, 他者と協力するような指導内容を検討する。 ●学校間交流では, 十分な交流の時間をとることができなかった。 ◇昼食時などを活用した交流について検討し, 活動時間を確保できるように計画をする。</p>